

2025年3月期決算説明

2025年5月16日

富士紡ホールディングス株式会社

取締役社長 井上 雅偉



■ 2024年度実績

売上高 429億円（前期比+18.8%増収）

営業利益 64億円（前期比+129.8%増益）

■ 【研磨材事業】

好調な先端半導体向け需要増加等を背景に、増加基調

■ 【化学工業品事業】

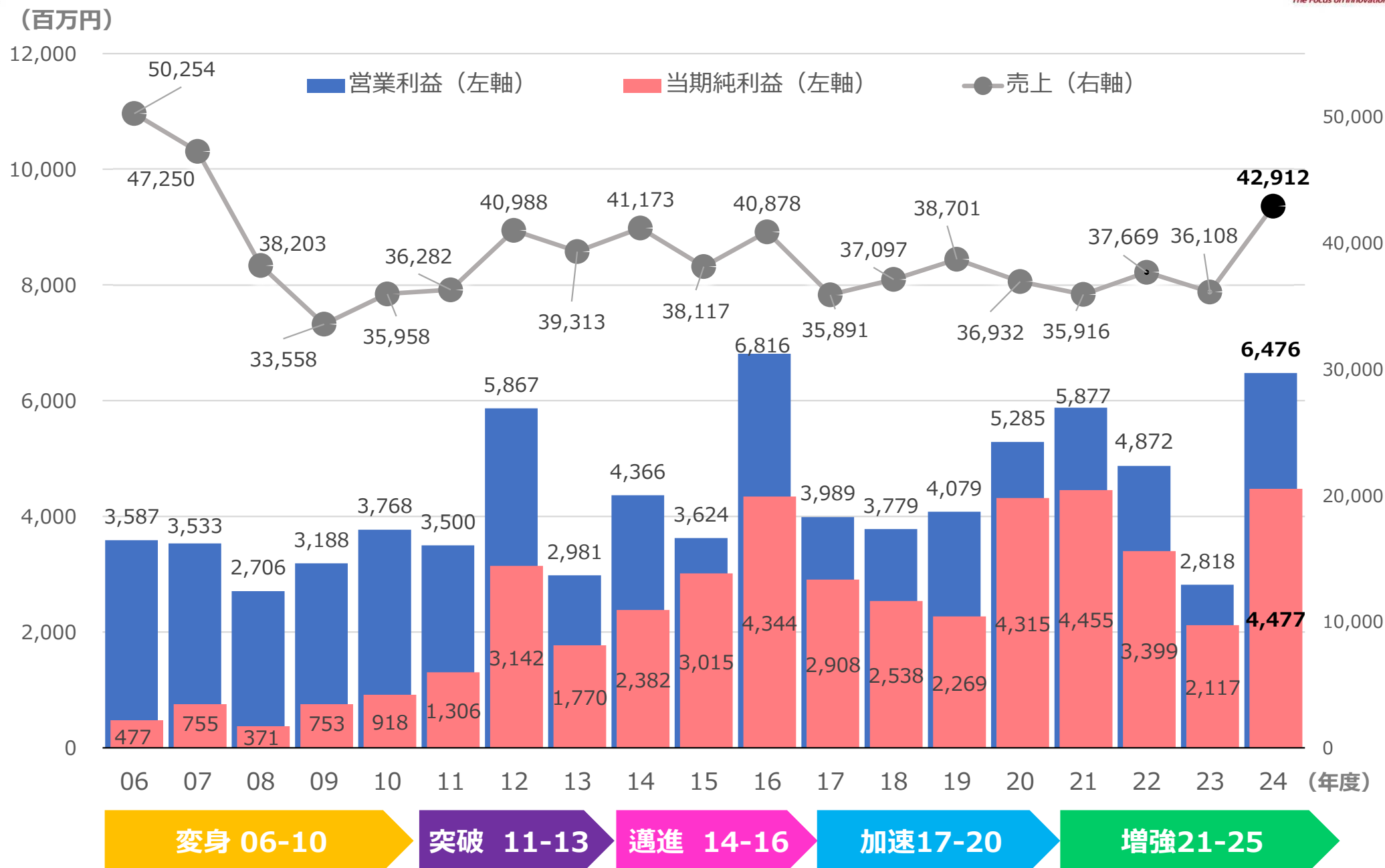
電子材料を中心とした市況悪化が底打ちし、回復基調

■ 【生活衣料事業】

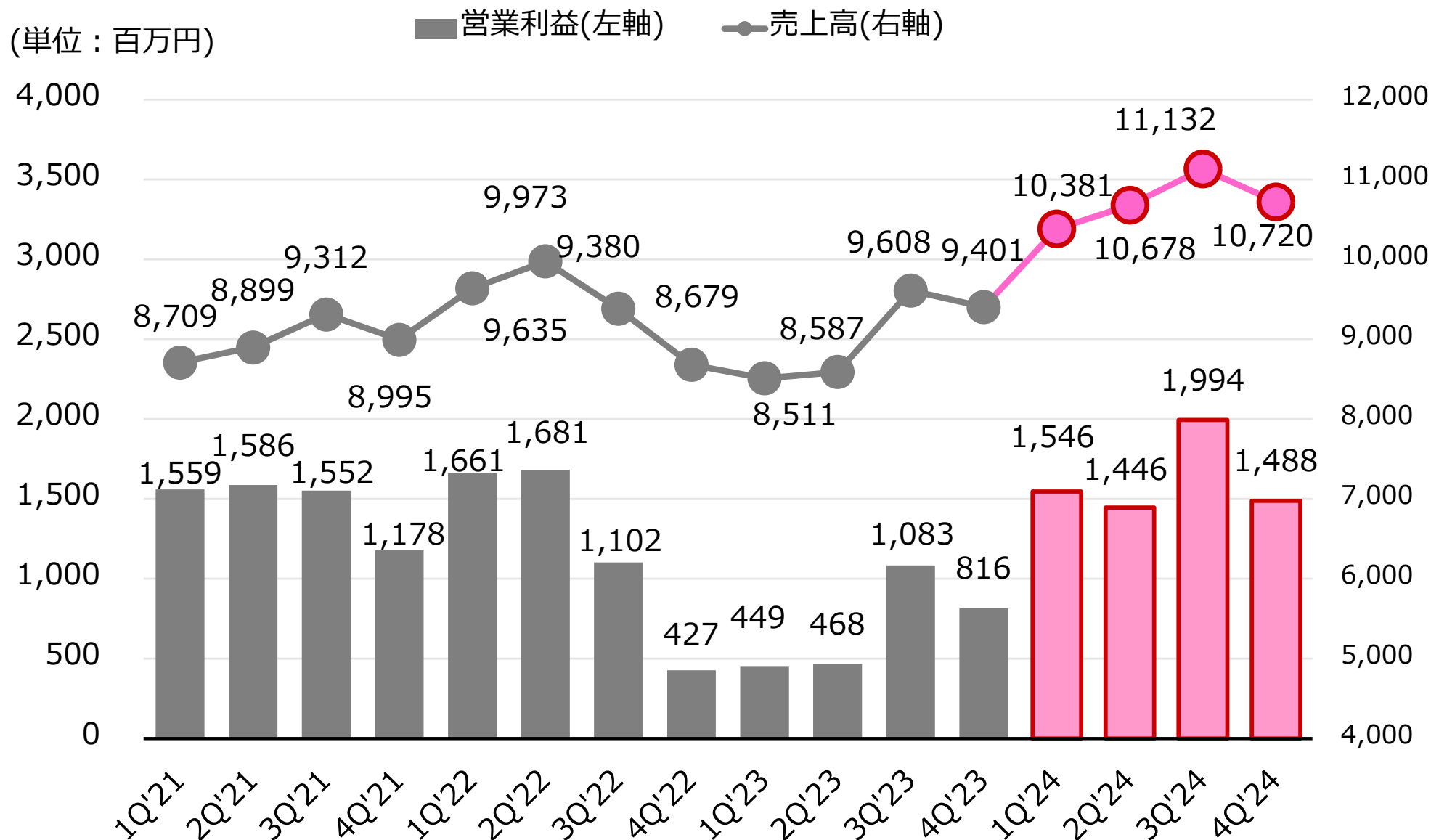
国内での販売が減少傾向にあるものの、
海外向け衣料品の売上は堅調

■ 年間配当は、2024年度130円、2025年度150円を予定 自己株式取得 5億円

業績推移



四半期業績推移



FY24 連結決算概要

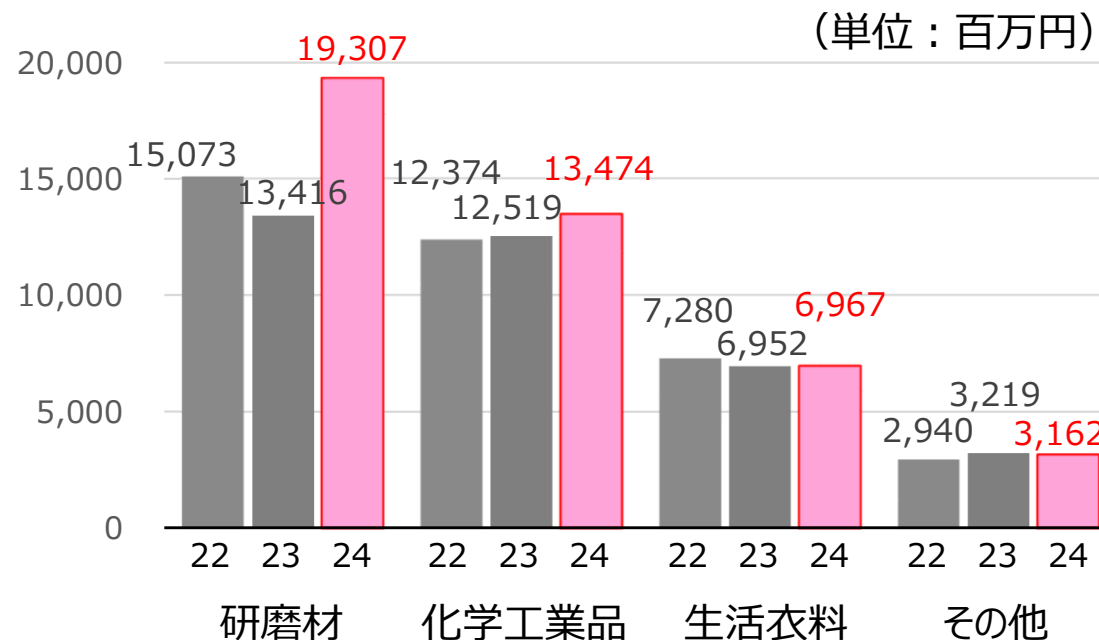
(単位：百万円)

	FY23	FY24	前年 同期比
売上高	36,108	42,912	+18.8%
営業利益	2,818	6,476	+129.8%
経常利益	3,276	6,675	+103.7%
当期純利益	2,117	4,477	+111.4%
EBITDA	6,106	9,841	+61.2%

FY24 セグメント別業績

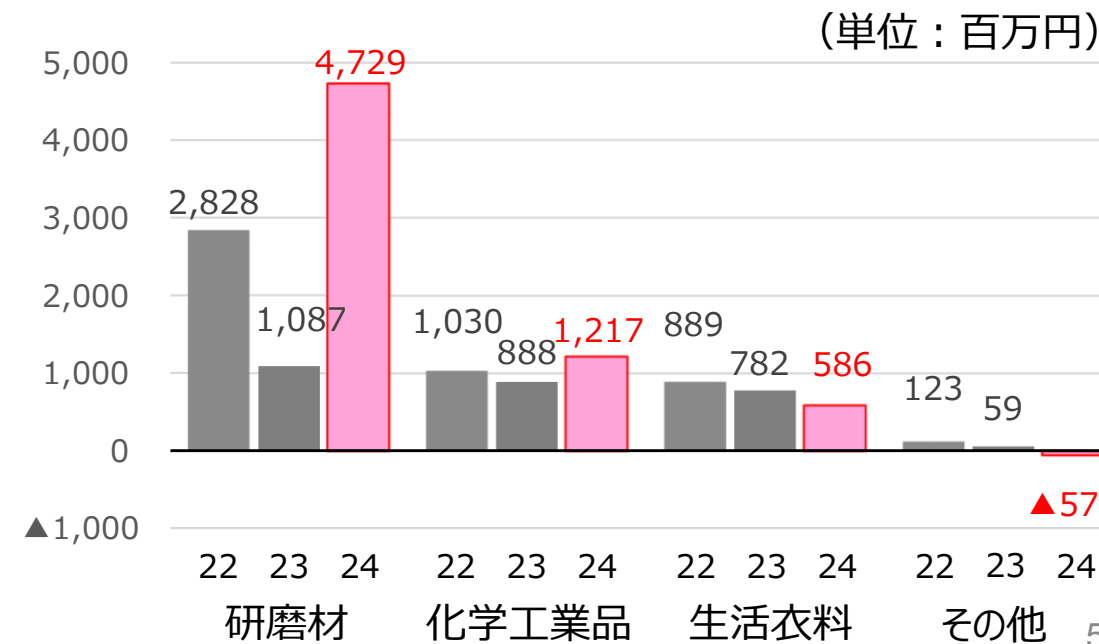
【売上高】

	FY23	FY24	前年 同期比
研磨材	13,416	19,307	+5,891
化学工業品	12,519	13,474	+955
生活衣料	6,952	6,967	+14
その他	3,219	3,162	▲57
合計	36,108	42,912	+6,804



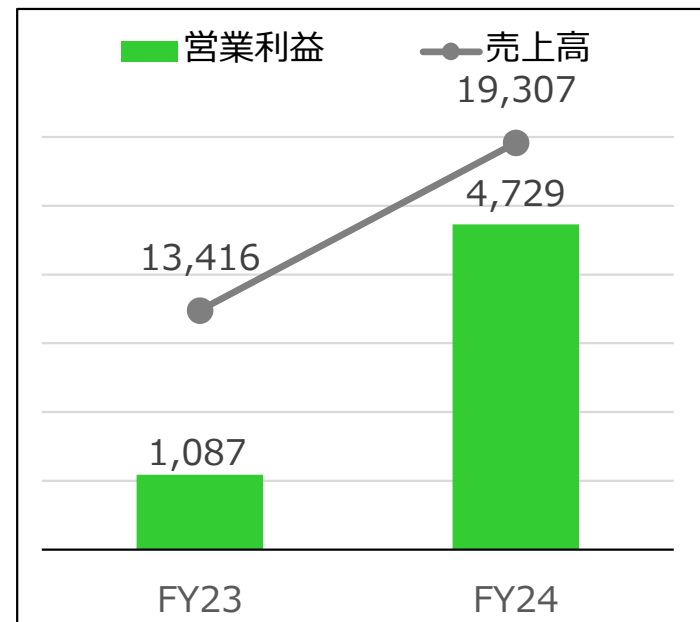
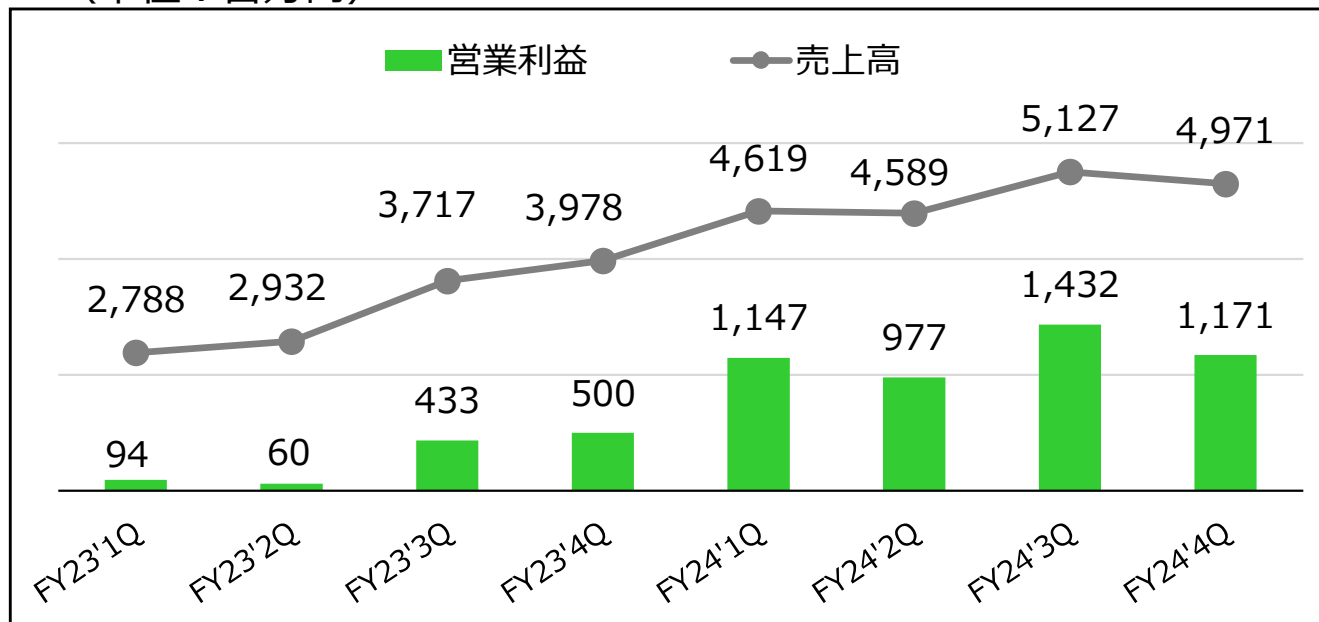
【営業利益】

	FY23	FY24	前年 同期比
研磨材	1,087	4,729	+3,641
化学工業品	888	1,217	+328
生活衣料	782	586	▲195
その他	59	▲57	▲116
合計	2,818	6,476	+3,658



研磨材事業

(単位：百万円)



FY24売上構成



増収増益

✓CMP用途

- ・生成 A I の普及による H B M などのメモリや最先端ロジック向け半導体の需要の増加

✓シリコンウエハー用途

- ・先端品用途の需要は堅調で一定水準の売上を確保

✓液晶ガラス用途

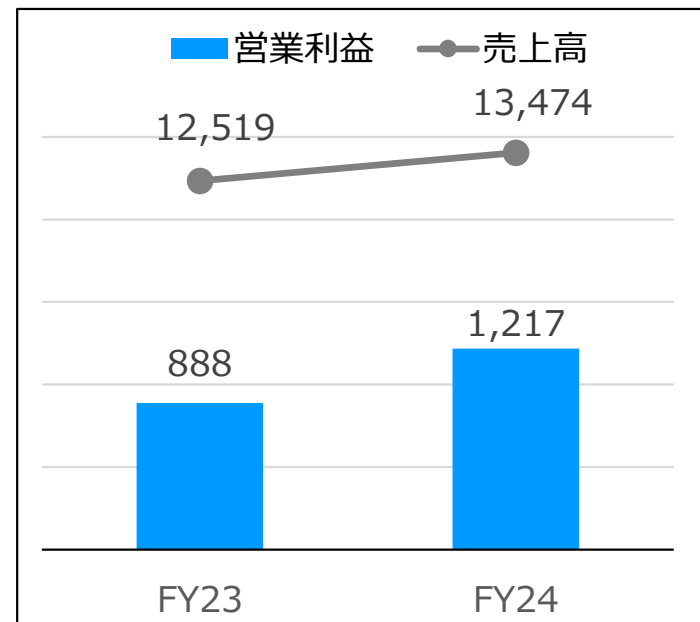
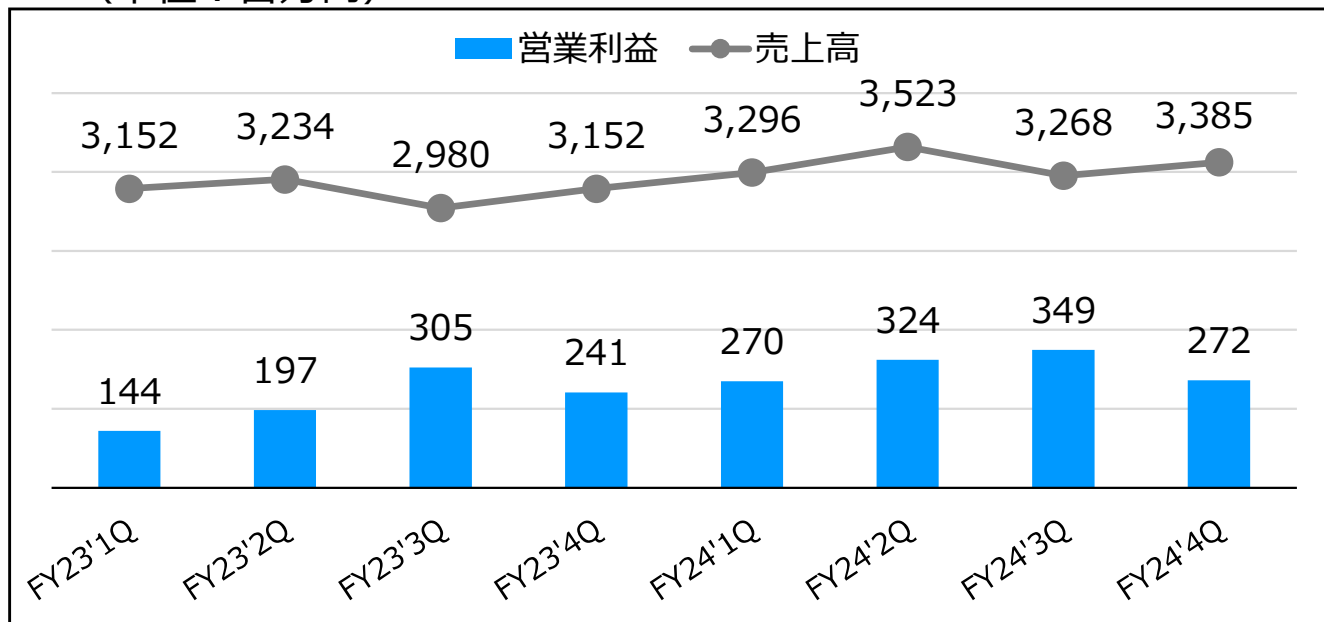
- ・ T V 需要の増加によるパネルの消費も進む

✓ハードディスク用途

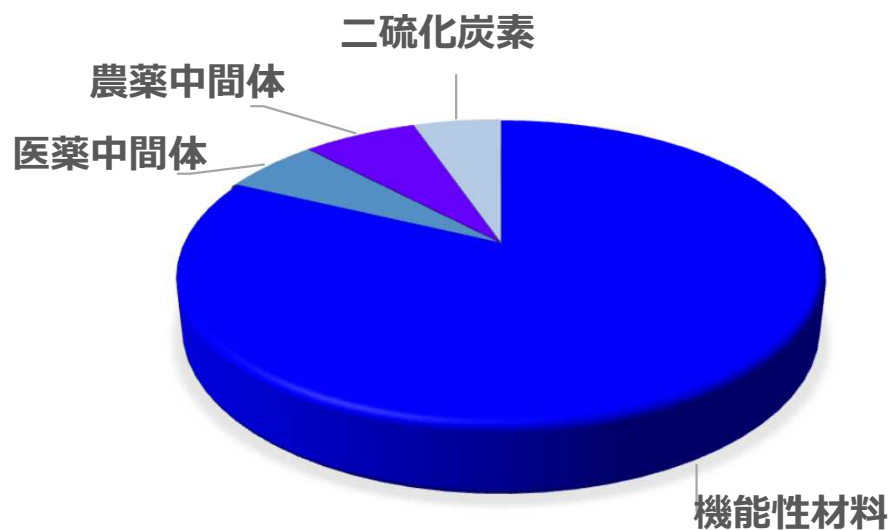
- ・データセンター向け需要が回復基調

化学工業品事業

(単位：百万円)



FY24売上構成



増収増益

✓機能性材料・医薬中間体・農薬中間体

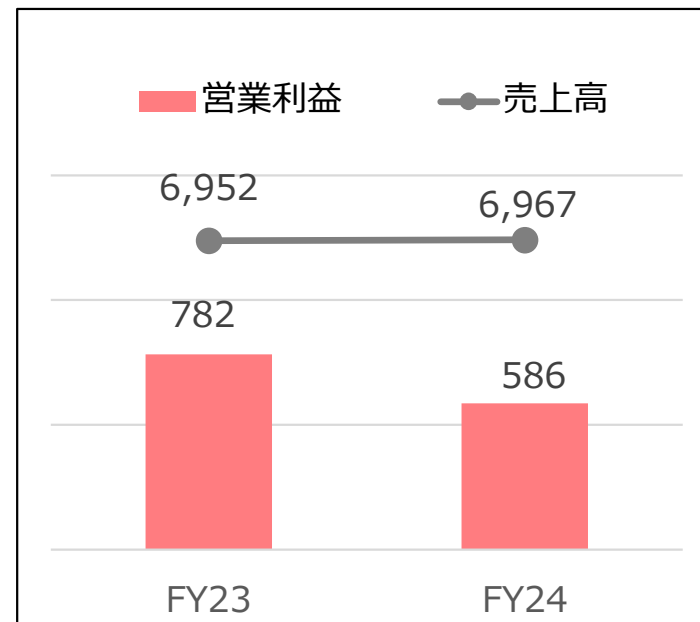
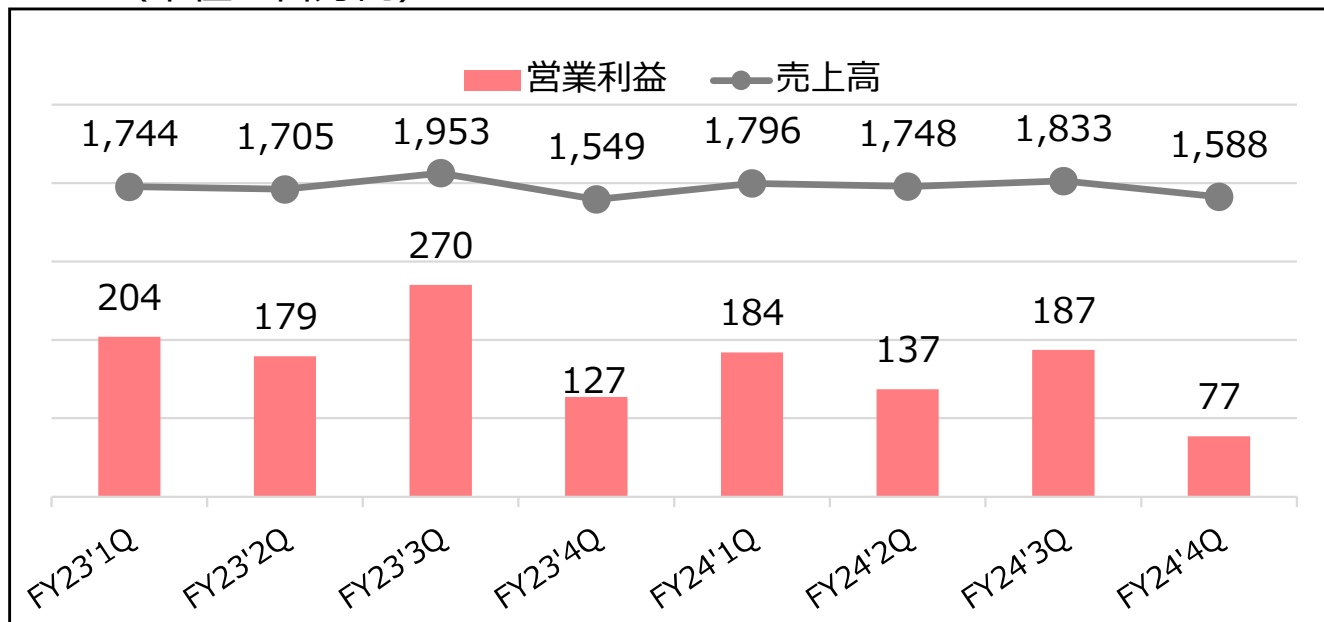
- ・半導体を含む電子材料市場の緩やかな拡大と在庫調整の一巡により需要が回復傾向
- ・一部の機能性材料を中心に堅調
- ・農薬関連では在庫調整が継続

✓柳井工場、武生工場ともに稼働率改善

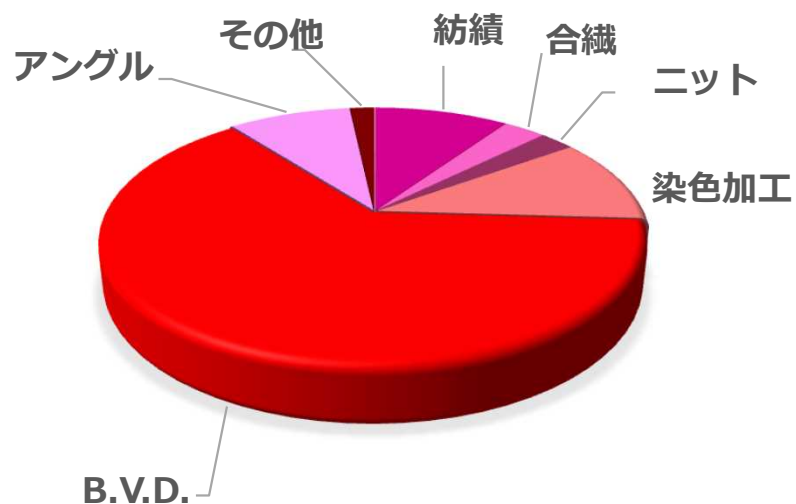
- ・新規製品への取り組みが奏功し、工場の稼働は改善

生活衣料事業

(単位：百万円)



FY24売上構成



増収減益

✓繊維素材

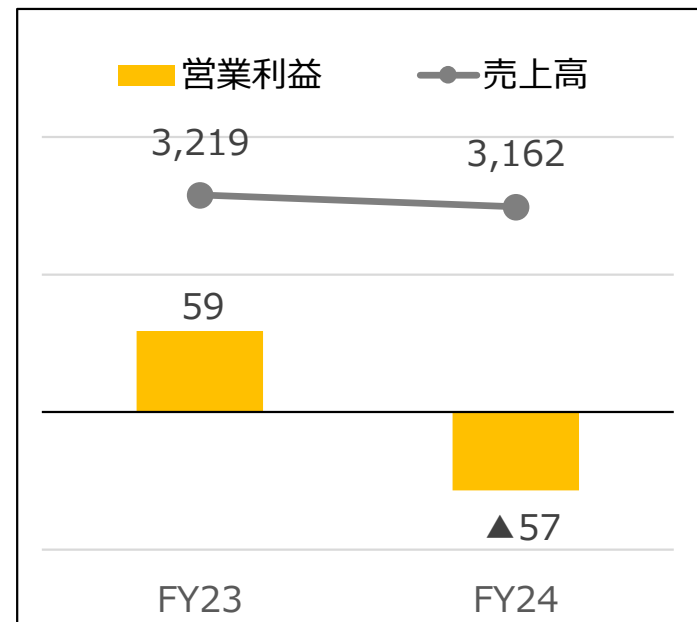
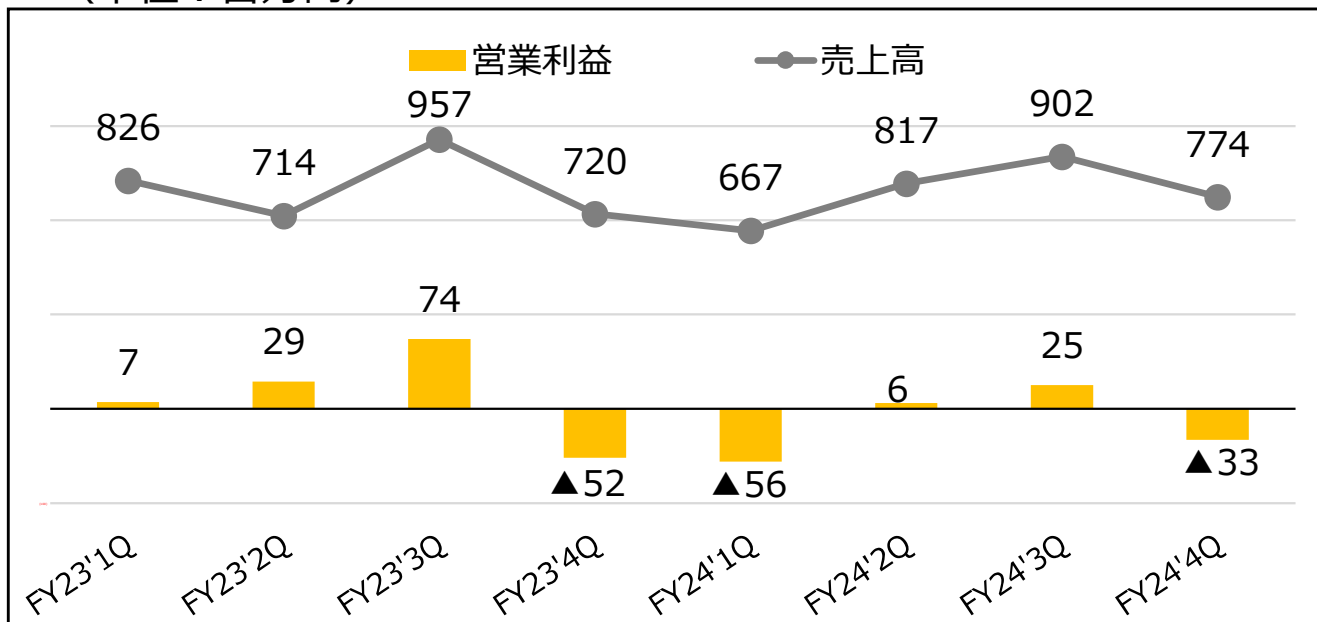
- ・ 物流費やエネルギーコストの高騰に加えて円安が影響し、厳しい環境が続く

✓繊維製品

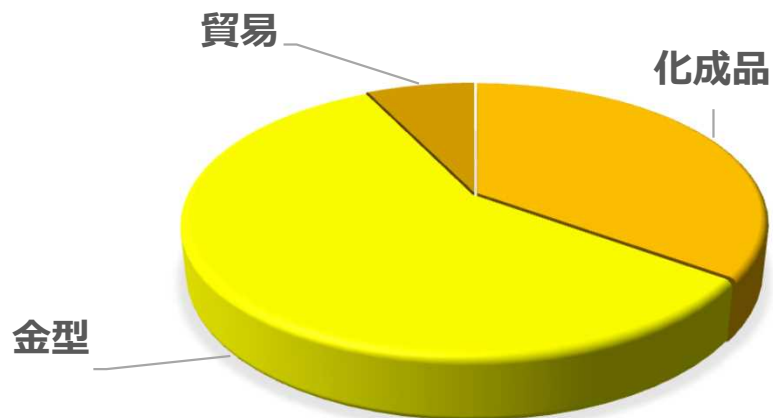
- ・ 量販店の店舗減少に加え消費者の節約志向の高まりが影響
- ・ ネット販売はWebマーケティングの強化に加え、ネット専用製品を拡充
- ・ 高品質な日本製品が評価され、海外向け販売は好調に推移

その他事業

(単位：百万円)



FY24売上構成



減収減益

✓化成品部門

- ・ 医療機器用部品およびデジタルカメラ用部品の受注が堅調に推移

✓金型部門

- ・ 自動車用金型は自動車メーカーの品質不正問題等により不透明な状況
- ・ 事務機器用金型は開発案件の端境期のため、低調に推移

✓貿易部門

- ・ 採算性を重視した取引への改善

FY24 連結損益計算書

(単位：百万円)

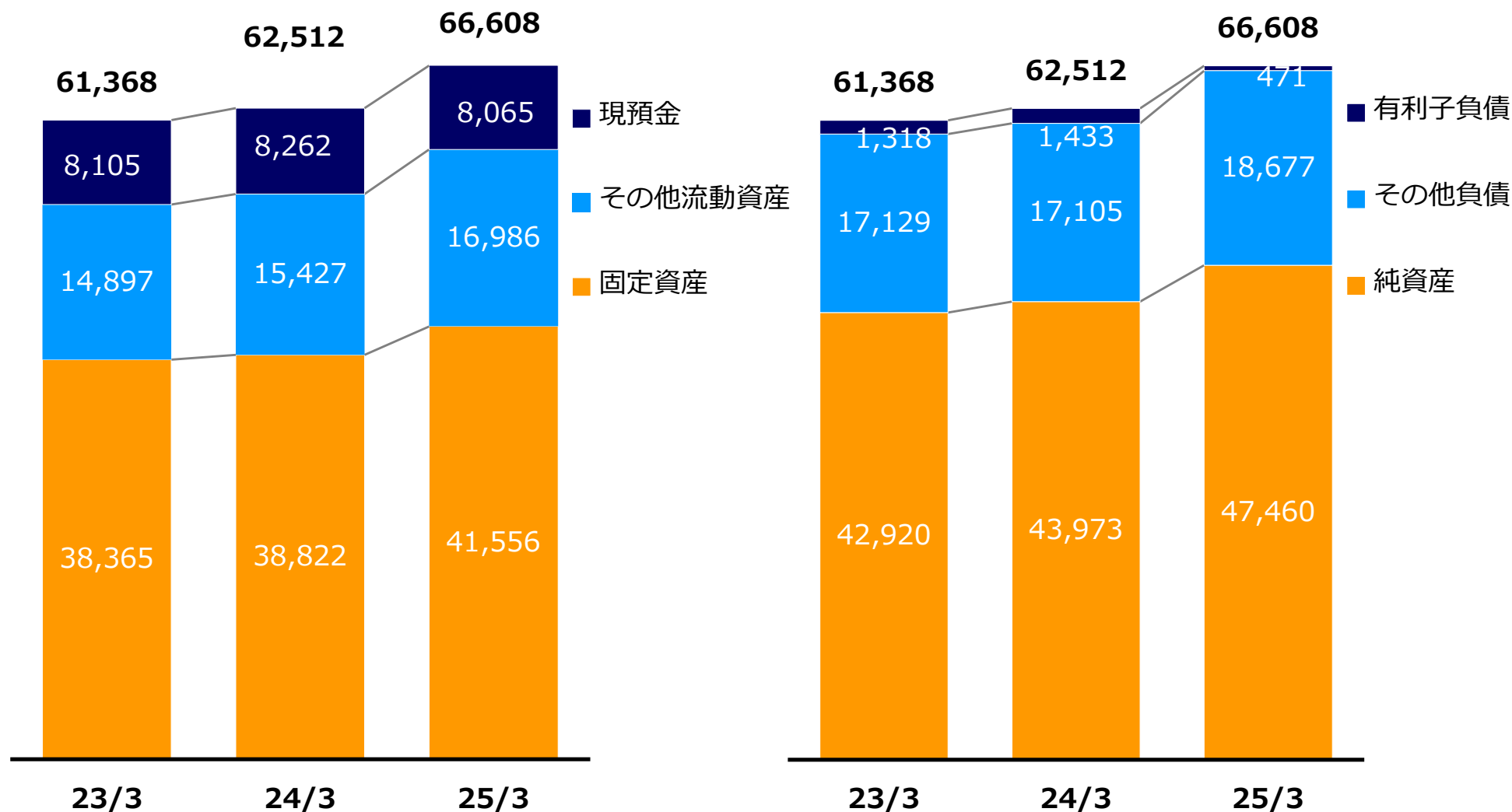
	FY23	FY24	増減	
売上高	36,108	42,912	+6,804	+18.8%
営業利益	2,818	6,476	+3,658	+129.8%
営業外損益	+458	+198	▲259	
経常利益	3,276	6,675	+3,398	+103.7%
特別損益	▲25	▲36	▲10	
税金等調整前当期純利益	3,251	6,638	+3,387	+104.2%
法人税等	1,133	2,161	+1,027	
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,117	4,477	+2,359	+111.4%

連結貸借対照表

(単位：百万円)

資産

負債・純資産



自己資本比率 (%)

69.9%

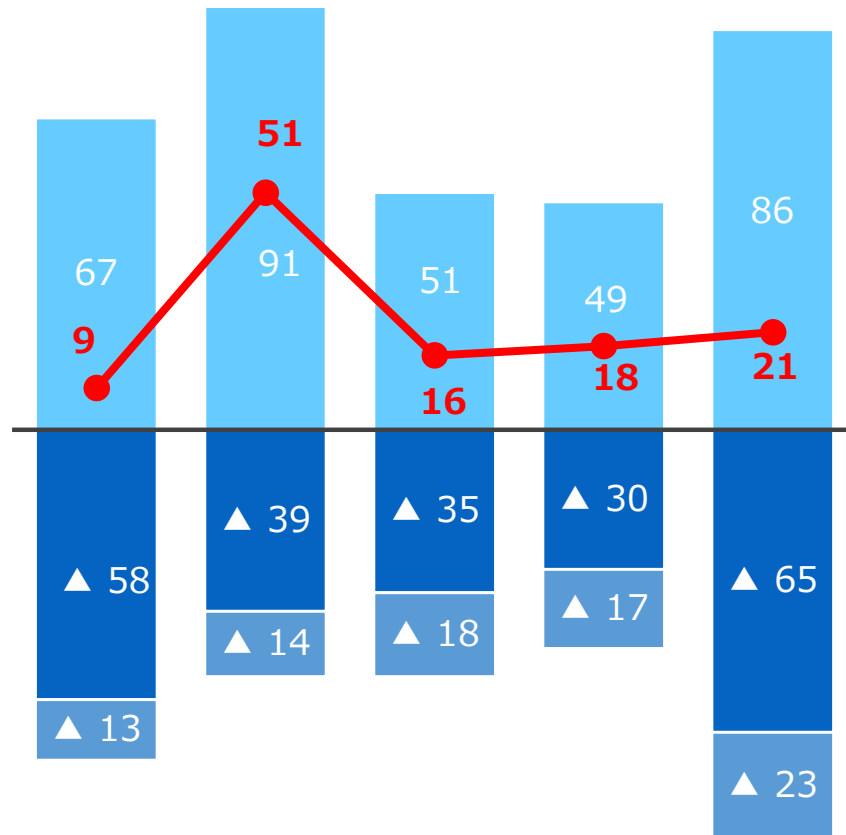
70.3%

71.3%

キャッシュフロー・運転資本

(単位：億円)

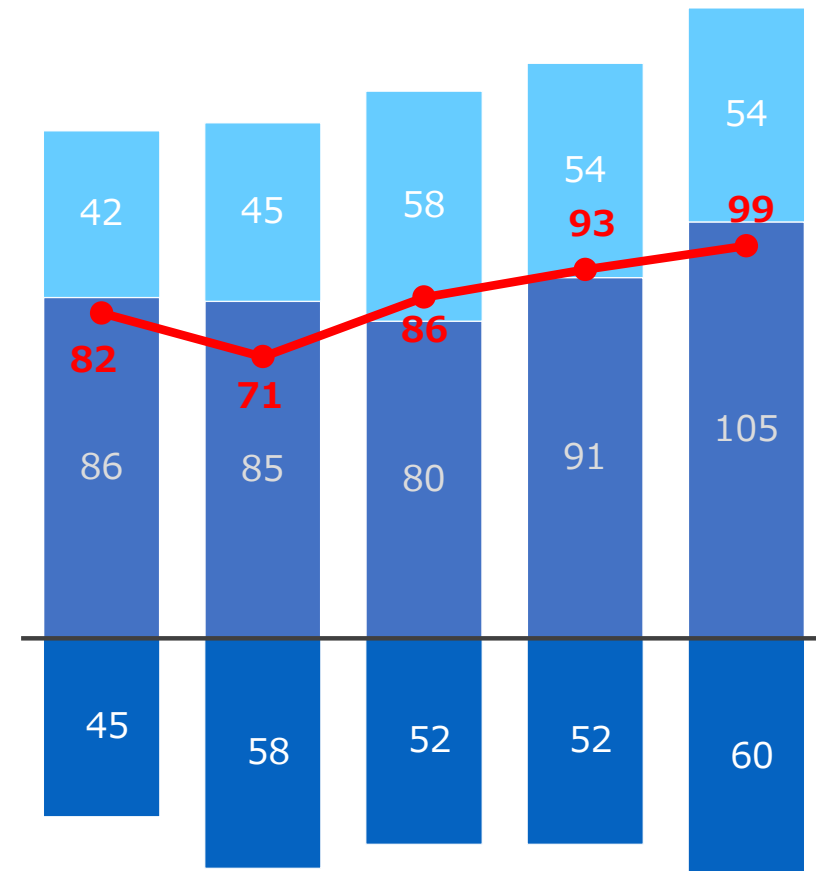
キャッシュフロー



21/3 22/3 23/3 24/3 25/3

営業CF 投資CF 財務CF FCF

運転資本



21/3 22/3 23/3 24/3 25/3

売上債権 棚卸資産
仕入債務 運転資本

営業利益増減要因分析

(単位：百万円)

+3,658

2,818

3,930

971

▲ 385

▲ 145

▲ 101

▲ 612

6,476

FY23

数量要因

販売価格要因

原材料・燃料
価格要因

原価要因

為替要因

経費要因

FY24

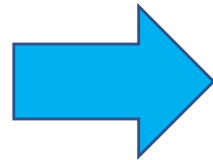
2025年度予想のポイント

■業績予想：増収増益

【2024年度】

売上高 429億円

営業利益 64億円



【2025年度】

売上高 462億円（前期比 +7.7%）

営業利益 70億円（前期比 +8.1%）

【研磨材事業】

- ・ AI関連投資の増加により、最先端ロジックやメモリ需要が拡大
- ・ 米国の関税政策の影響は米国直接向けがごく一部であることから業績予想に織り込んでいないが、今後の需要減退リスクについては、引き続き注視

【化学工業品事業】

- ・ 化学業界全体の需要回復や半導体を中心とした電子材料市況の好転により、受注が増加傾向

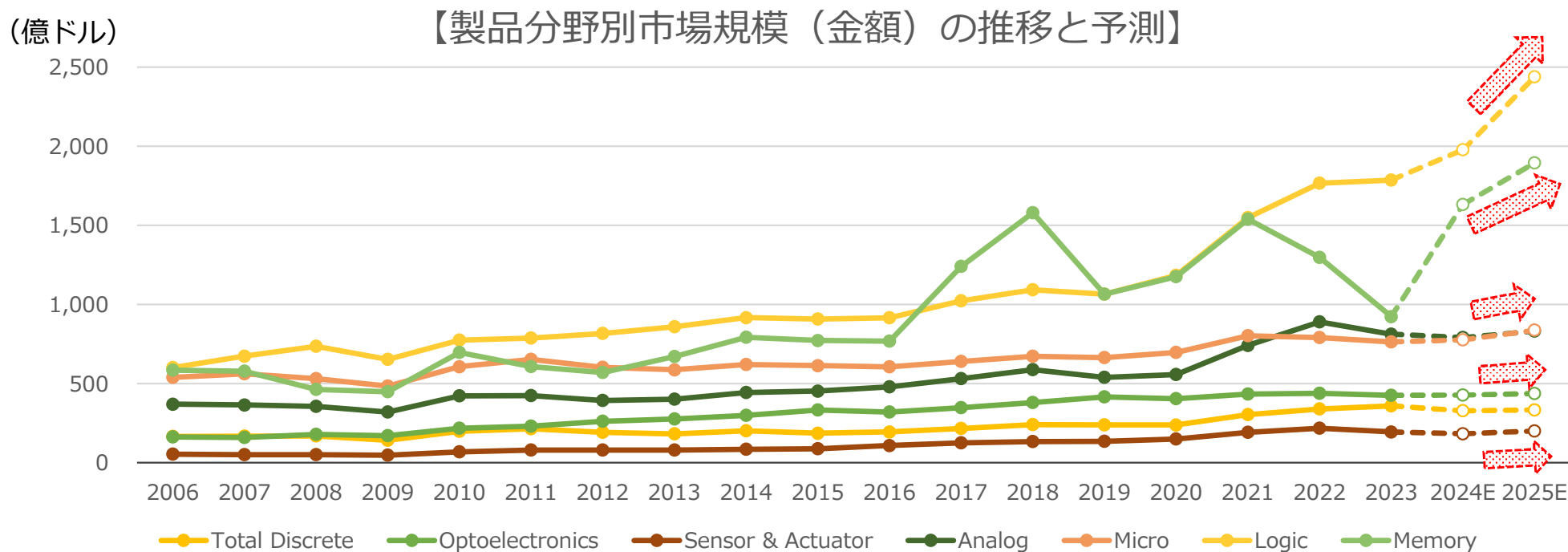
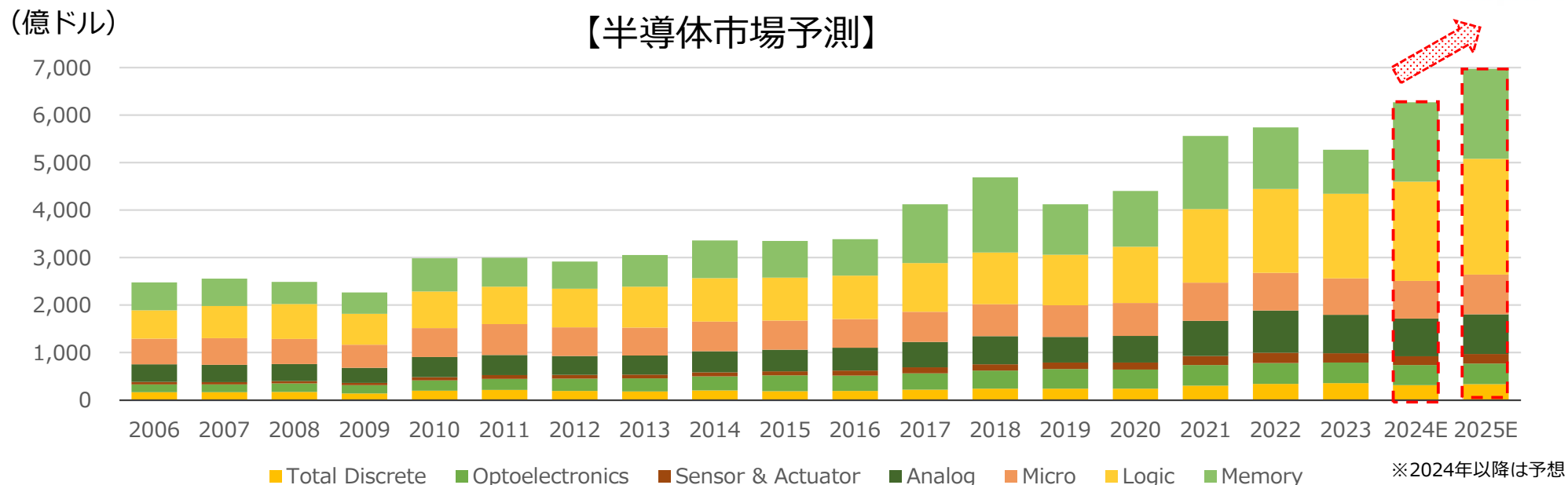
【生活衣料事業】

- ・ B.V.D.製品は認知度を高めることで商品の販売力を向上
- ・ アンクル製品は好調な海外向けの販路拡大
- ・ 繊維素材は事業の一部を休止し、経営資源を研磨材事業へ選択集中

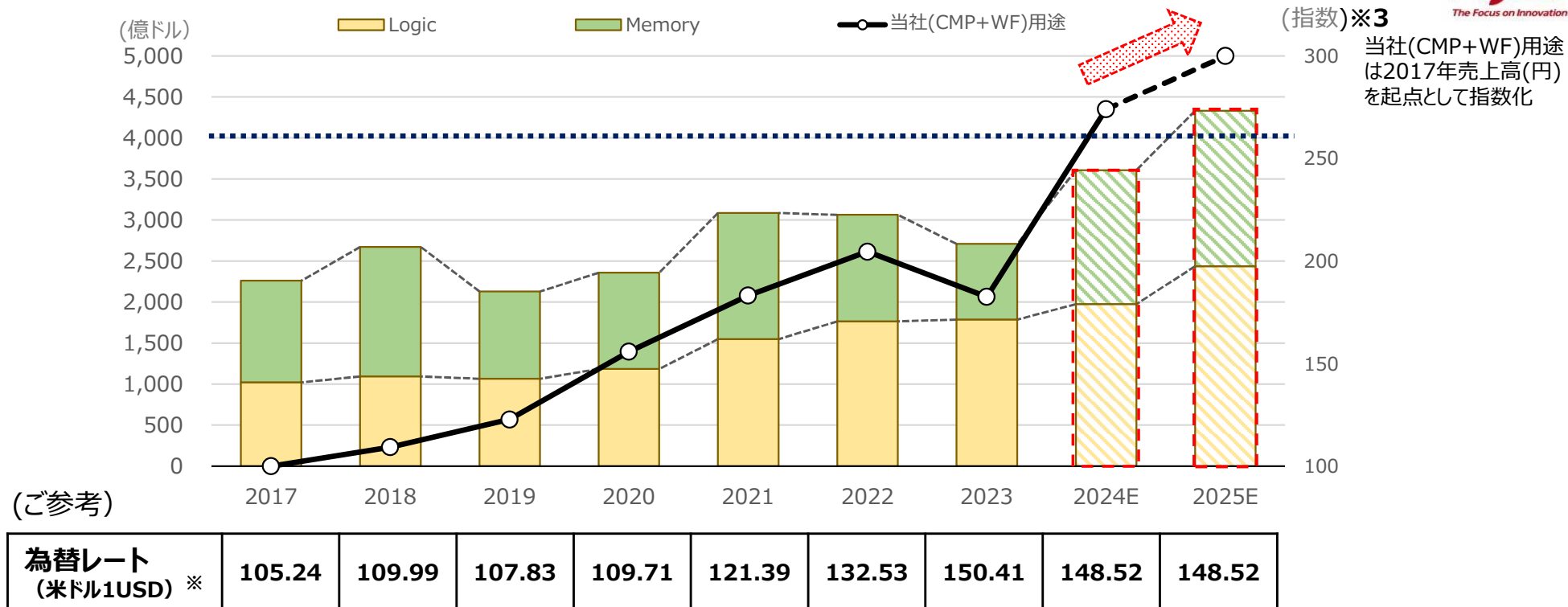
【その他事業】

- ・ 医療機器用部品向けのユーザー増産に合わせた生産体制構築と安定稼働の実現
- ・ 金型は当面厳しい状況、2025年度後半から回復の見通し

世界半導体市場動向（WSTS予測） 用途別

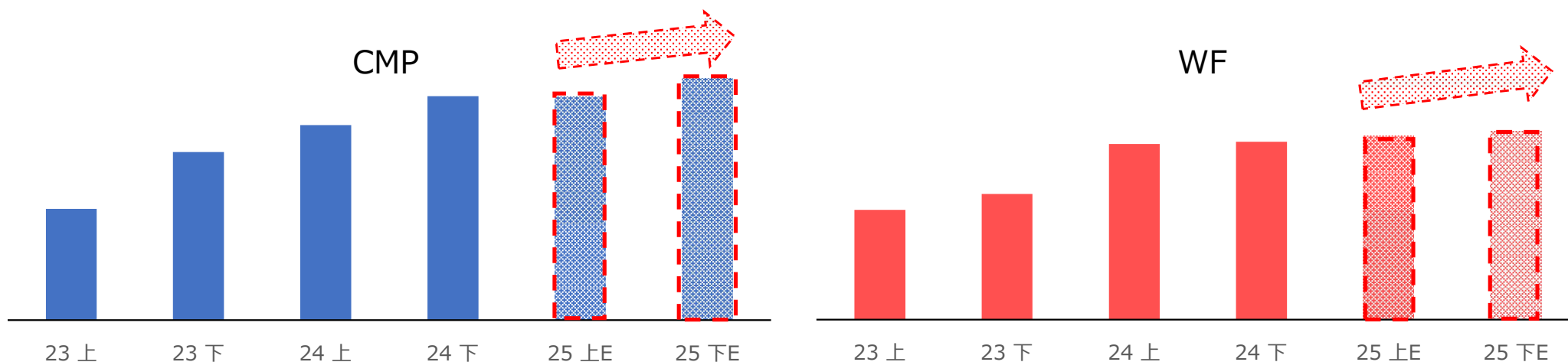


ロジック・メモリ半導体市場動向と売上予測(研磨材事業)



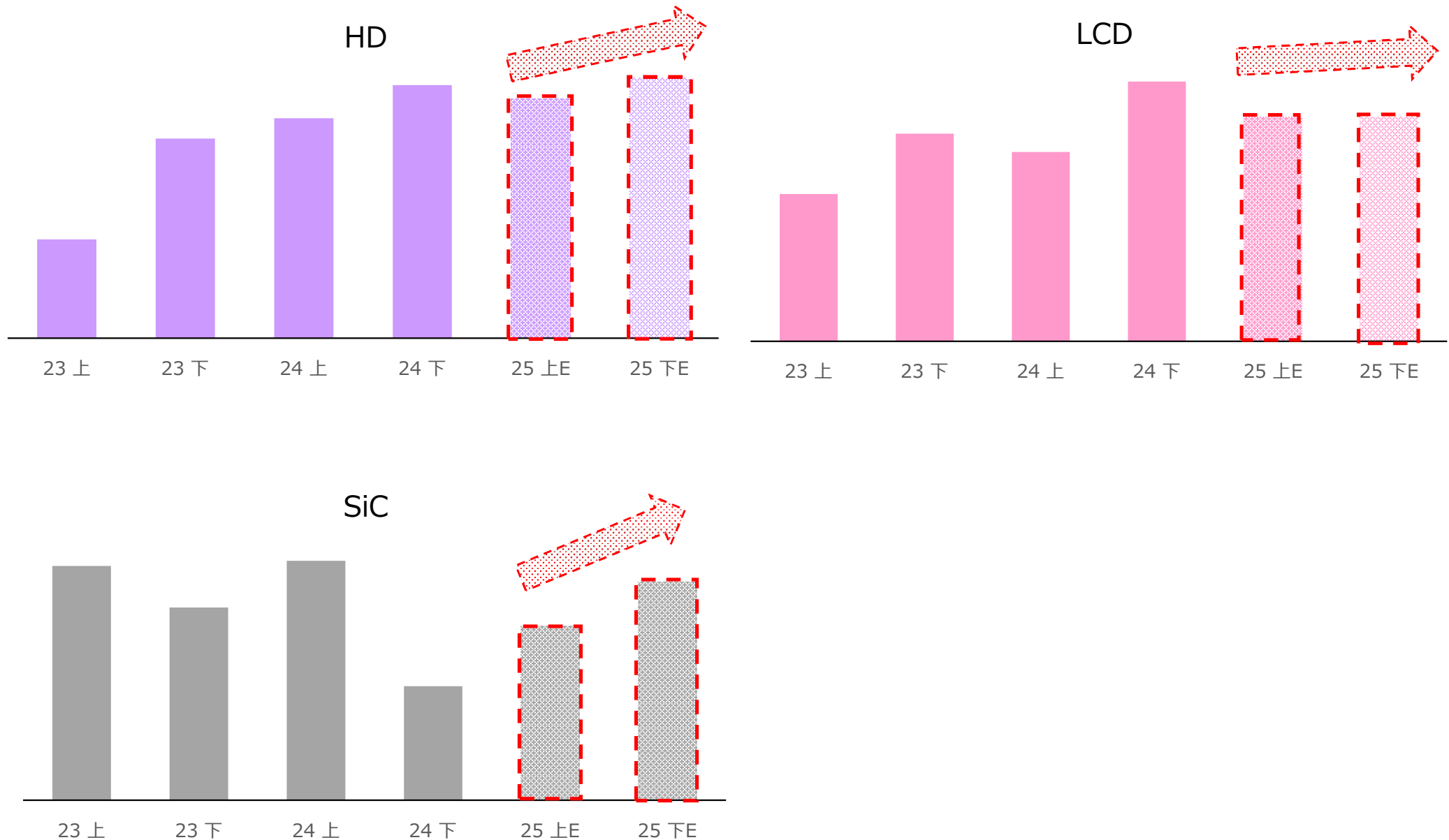
※1 半導体市場動向はWSTS予測

※2 各年度の期末(3月末)のTTB、2024E、2025Eは2025年3月末TTBを使用



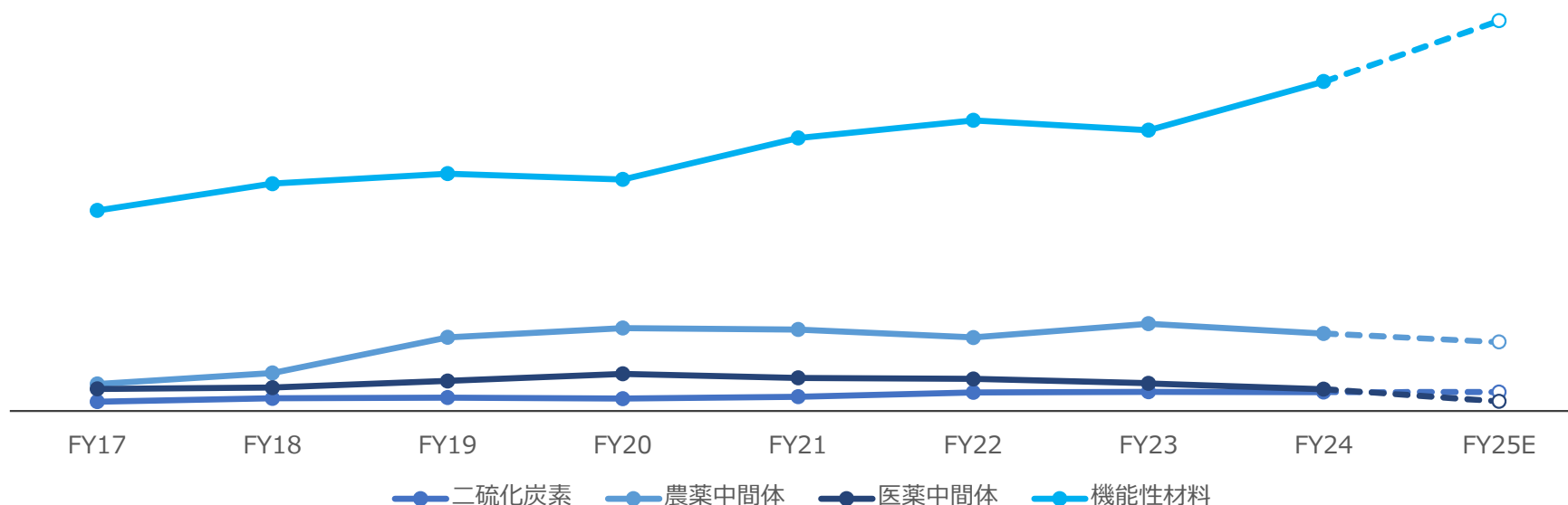
売上予測（研磨材事業）

【研磨材事業用途別売上の見通し】

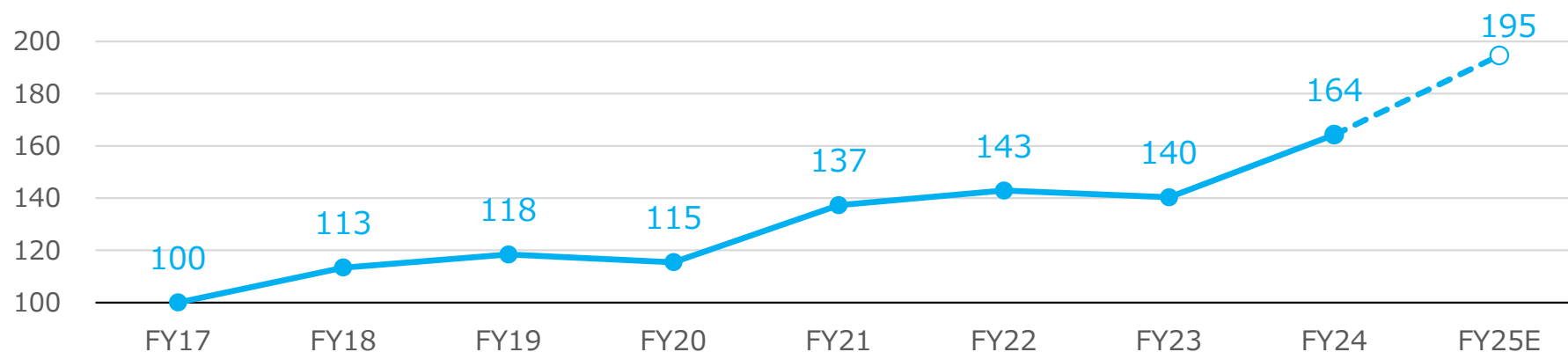


当社の売上予測（化学工業品事業）

【化学工業品事業売上高推移】

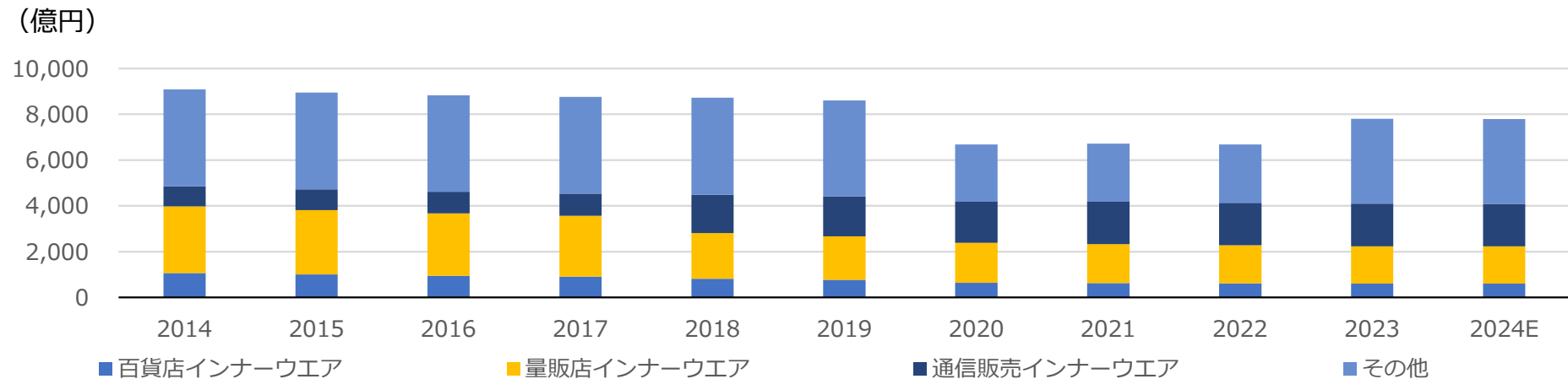


【機能性材料売上高指数推移】※FY17=100とする



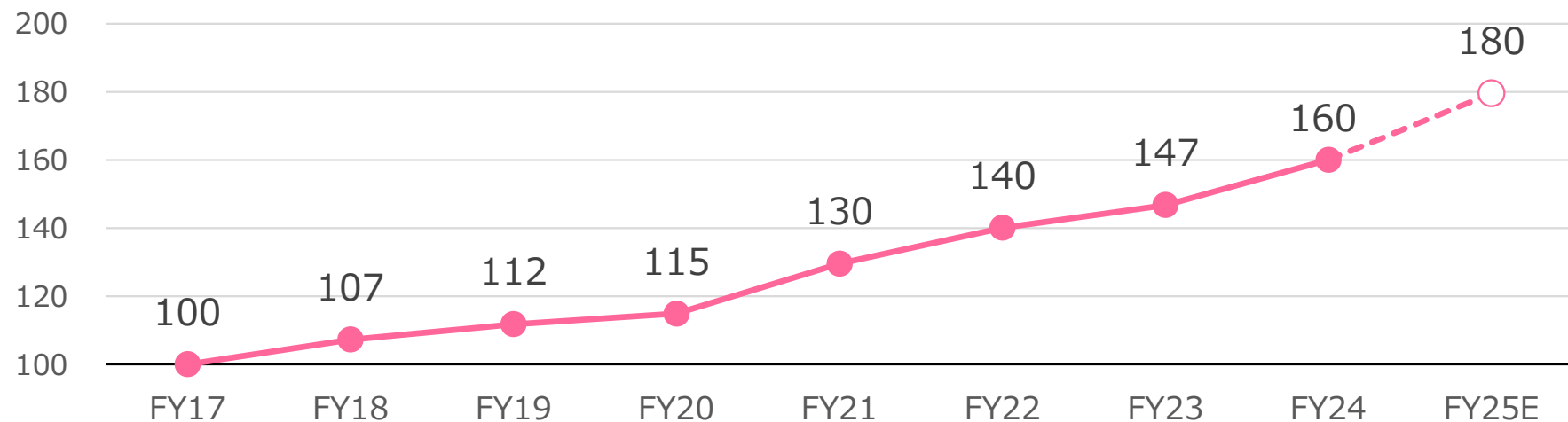
当社の売上予測（生活衣料事業）

【チャネル別市場動向(売上規模)】



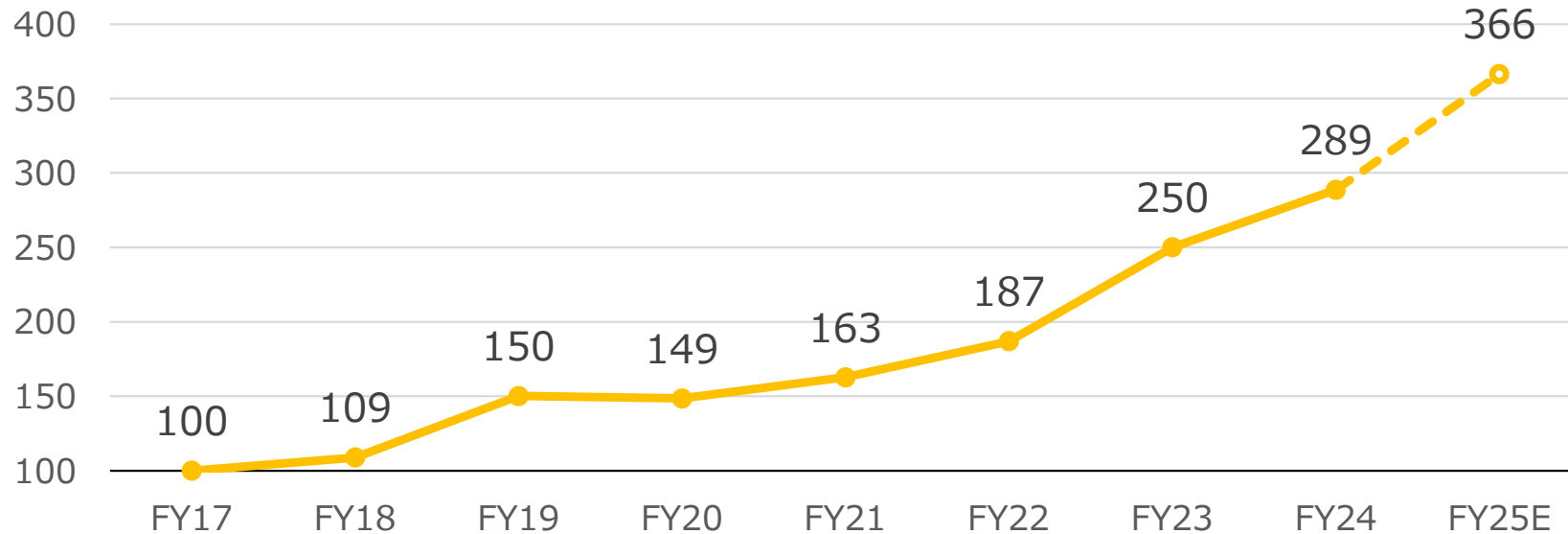
(出典：各種資料より当社推定)

【BVD・アングル事業におけるインナーウェアのEC売上高推移】 ※FY17=100とする



当社の売上予測（その他事業）

【医療機器用化成品の売上推移】※FY17=100とする

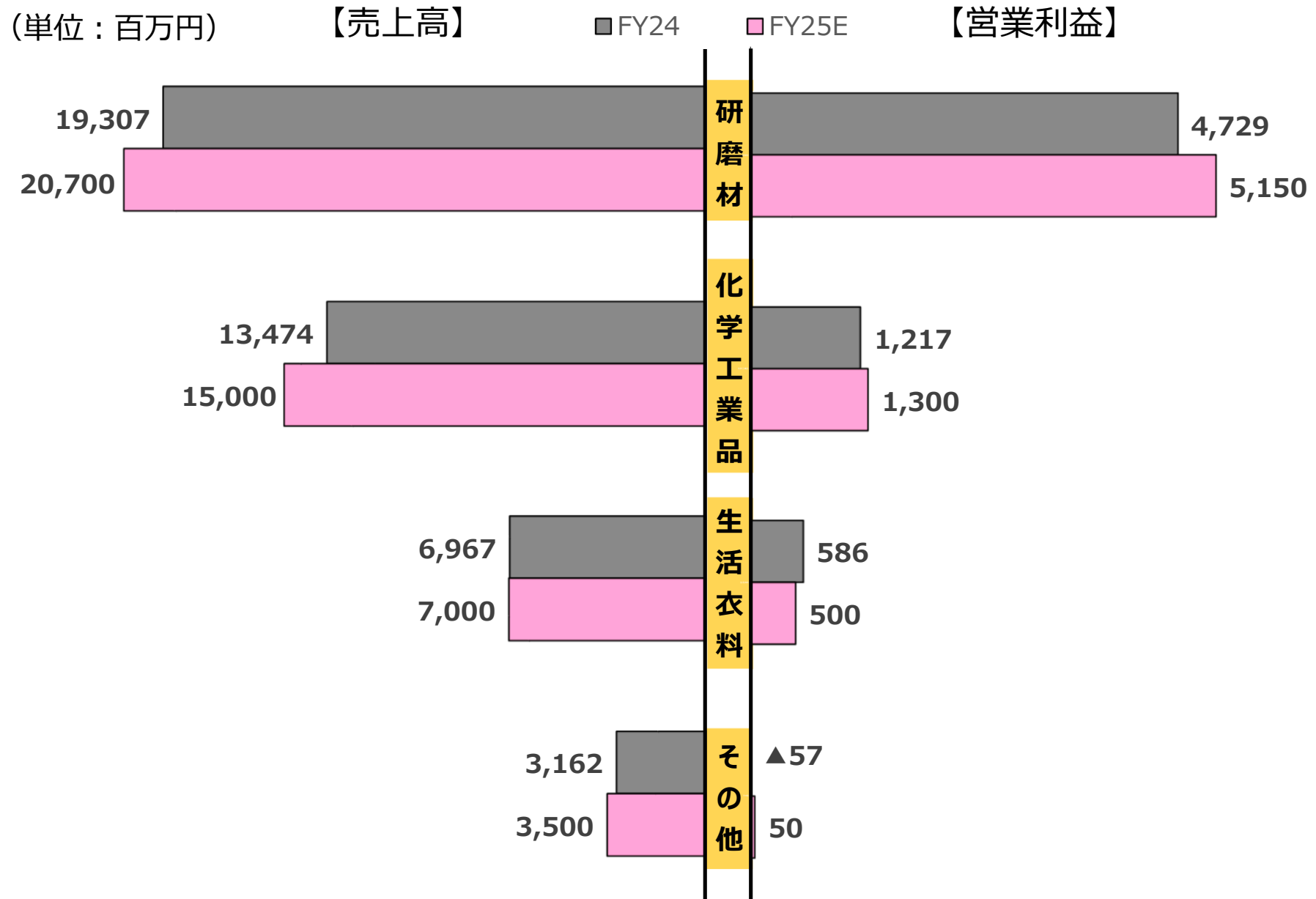


早期黒字化

安定成長

化成品	現状	・医療機器用途向けの増産体制立ち上げ遅れ ・今後医療機器用途向け需要拡大	対策	新工場立ち上げや統合で新たな生産体制を整備
金型		・自動車業界回復基調もEVシフトなど変革期 ・事務機器用金型も開発案件の端境期 ・車載コネクタやスマホ向けホットランナーの引き合いも低調		・自動車用金型の確実な受注確保と新規開拓を進め、利益を確保 ・新規顧客獲得と既存顧客の掘り起こしを継続的に ・受注の平準化と売上確保 ・徹底した原価管理と生産工数の管理体制強化
その他		・その他事業における研究開発費増加		中長期的な視野での次世代事業の開発推進

FY25 セグメント別予想



FY25 連結業績予想概要

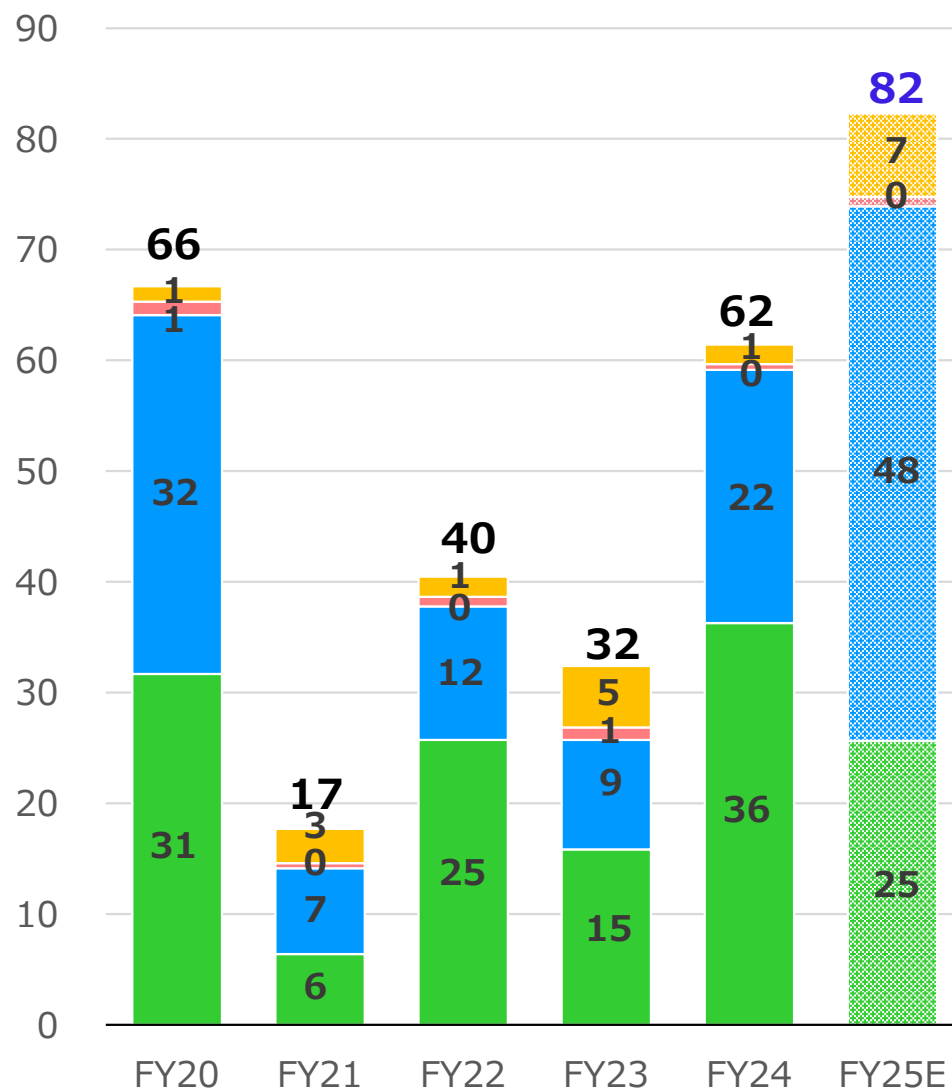
(単位：百万円)

	FY24 実績	FY25業績予想		年度	
		上期予想	年間	増減額	増減率
売上高	42,912	22,700	46,200	+3,287	+7.7%
営業利益	6,476	3,380	7,000	+523	+8.1%
経常利益	6,675	3,480	7,200	+524	+7.9%
当期純利益	4,477	2,270	4,700	+222	+5.0%
EBITDA	9,841	4,926	10,244	+403	+4.1%
1株あたりの 当期純利益	405.82円	200.12円	414.34円	+8.52円	
1株あたりの 配当金	130円	75円	150円	+20円	

セグメント別設備投資・減価償却費

【設備投資】

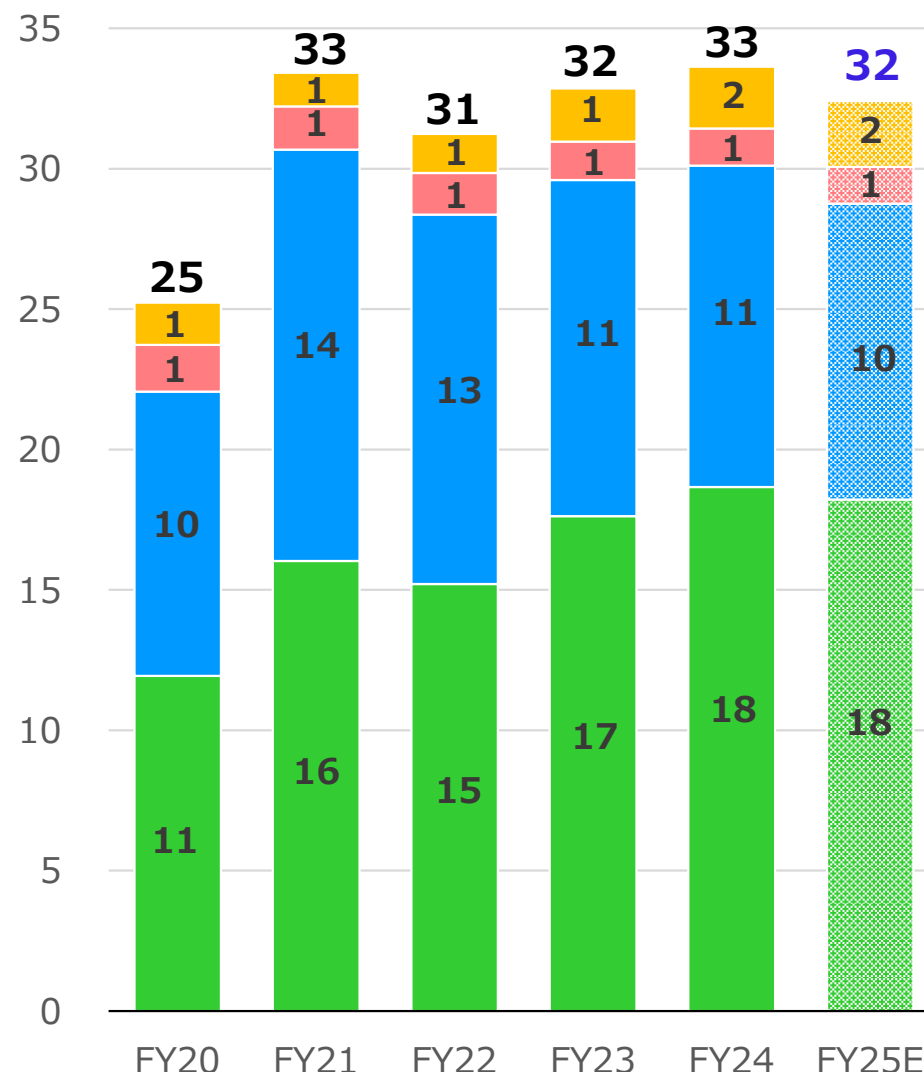
(単位：億円)



■ 研磨材 ■ 化学工業品 ■ 生活衣料 ■ その他+調整額

【減価償却費】

(単位：億円)



■ 研磨材 ■ 化学工業品 ■ 生活衣料 ■ その他

中期経営計画「増強21-25」の振り返りと今後①

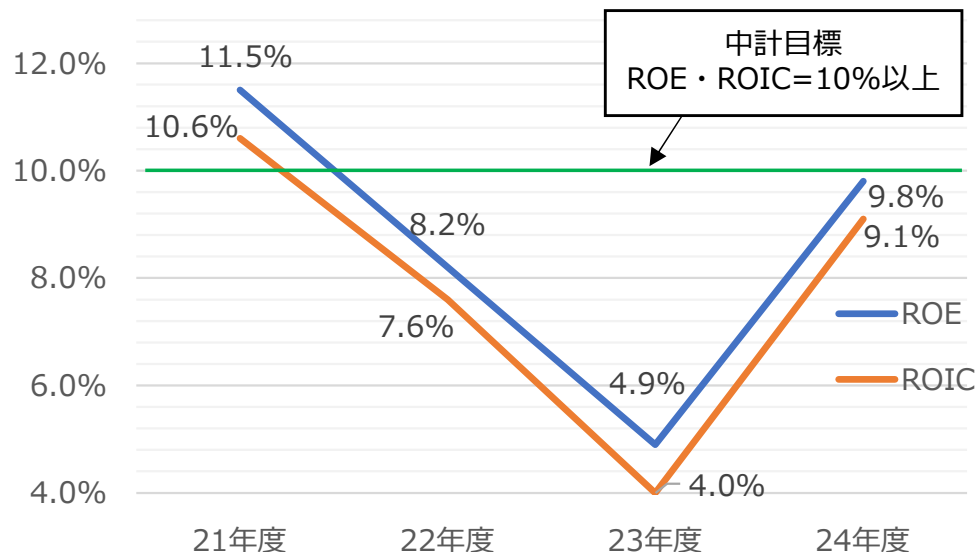
【数値目標】

(億円)	21年度 実績	22年度 実績	23年度 実績	24年度 実績	25年度 予想	25年度 中計目標
売上高	359	376	361	429	462	600
営業利益	58	48	28	64	70	100



22年度下期からシリコンサイクルの下方調整の影響を受けて、業績が低下、24年度より緩やかに業績回復中も、25年度中計目標値の達成は難しい。引き続き中期的に達成を目指して、事業運営していく。

ROE・ROIC推移



ROE・ROICも、22年度以降業績低下の影響を受けたものの、24年度より改善しており、25年度は、更なる業績の回復を実現し、目標とする10%の達成を目指す。

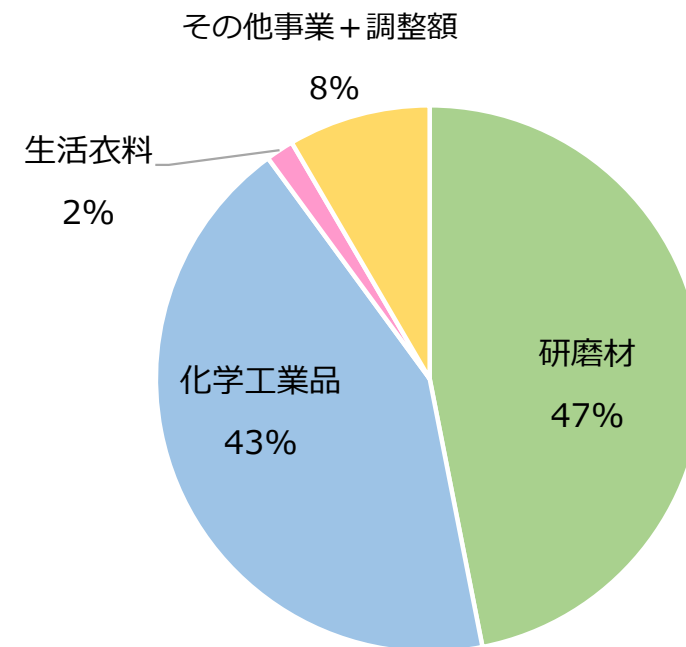
中期経営計画「増強21-25」の振り返りと今後②

【成長投資実施状況】

(億円)	21-25年度累計	
	中計目標	実績見通し
設備投資	150	234
M&Aなど	100-150	14
合計	250-300	248



セグメント別成長投資累計



- ✓ 成長投資として、250億円～300億円を計画。
- ✓ 能力増強・研究開発強化等、研磨材事業並びに化学工業品事業中心に自律的成長投資に軸足。特に研磨材事業は、最先端領域強化のため、研究開発投資が拡大。
- ✓ 「増強21-25」で計画した総額範囲で投資実施見込。

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた取り組みについて①

1. 現状分析

項目	単位	2021/3月期	2022/3月期	2023/3月期	2024/3月期	2025/3月期
売上高	百万円	36,932	35,916	37,669	36,108	42,912
営業利益	百万円	5,285	5,877	4,872	2,818	6,476
親会社株主に帰属する当期純利益	百万円	4,315	4,455	3,399	2,117	4,477
ROE	%	12.1	11.5	8.2	4.9	9.8
ROIC	%	10.1	10.6	7.6	4.0	9.1
期末株価	円	4,000	3,460	3,305	4,465	4,925
期末純資産額	百万円	37,282	40,497	42,920	43,973	47,460
PBR	倍	1.23	0.98	0.88	1.15	1.18

- ❑ ROE・ROIC：25年3月期は、研磨材事業の回復による利益増で改善。
- ❑ 26年3月期は、中期経営計画「増強21-25」の最終年度であり、当社資本コストを前提にしたROE・ROIC目標10%達成に向けて、更にもう一段の利益増への取り組みとバランスシートコントロールを強化していく。
- ❑ PBR：25年3月期は、業績回復と配当増、情報開示充実により1倍を維持したが、更なる向上が必要な水準。

2. 具体的な施策と活動

PBR向上

=

ROE・
ROIC
の改善

×

PER
の向上

①中長期的な企業価値向上に向けた成長投資を推進

研磨材・化学工業品における能力増強・研究開発投資の実行と投資効果の実現に向けた取り組み推進。社員の処遇水準引き上げや人財への投資強化も推進。

②「富士紡のROIC経営」の実践

事業ポートフォリオ改革として、繊維素材事業を一部休止、経営資源を研磨材事業へ。各事業において、債権回収期間・在庫水準の適正化推進。

③情報開示の充実

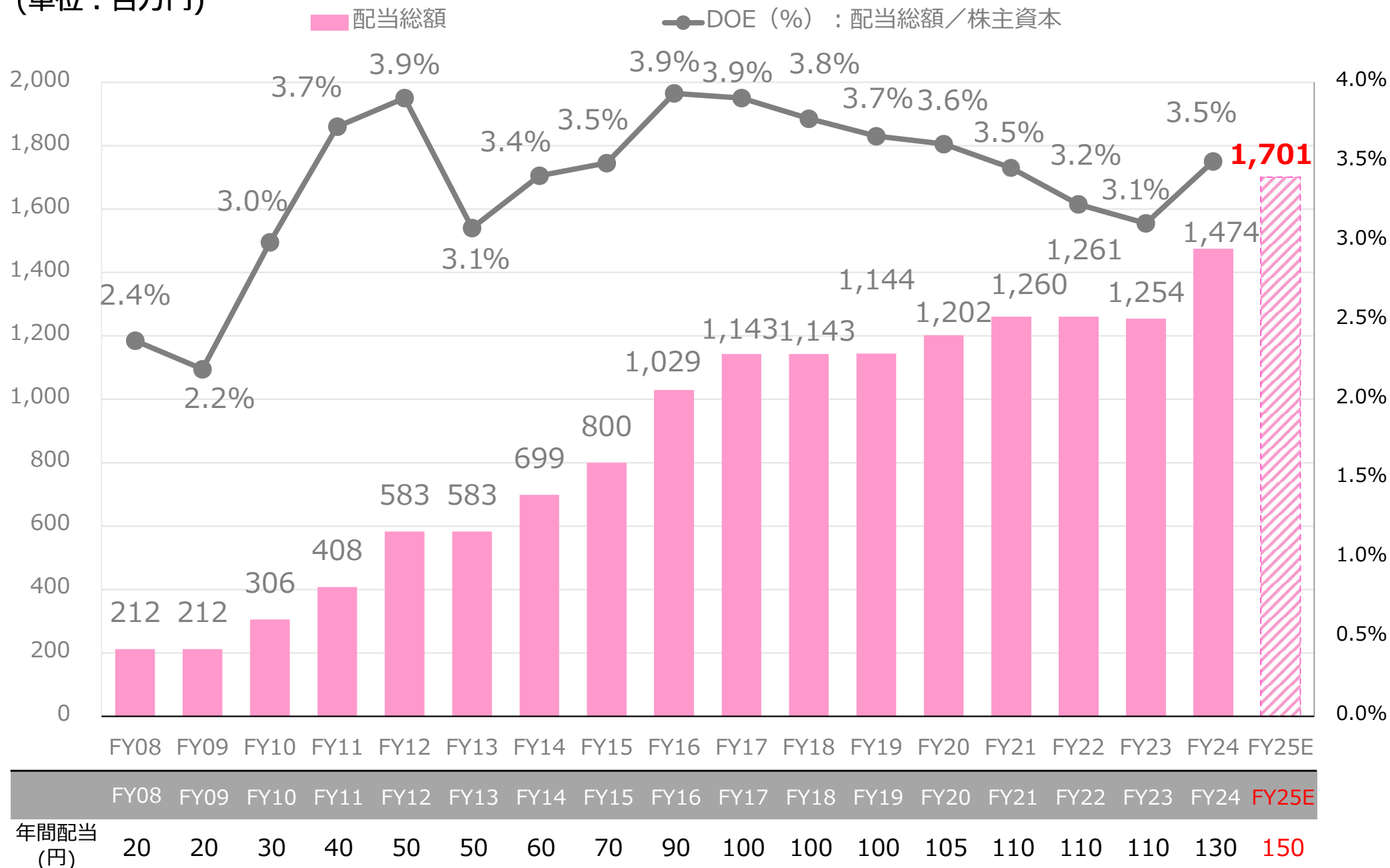
株主資本コスト率の低減と期待成長率の向上に向けて、情報開示の充実を実施。
(決算説明会WEB開催・英文開示強化・統合報告書発刊・大型設備投資)

④株主還元を重視

26年3月期より、配当に関する定量的な目標水準を明示
(配当性向35%)。特に、DOE=3.5%を下限とすることで、
資本コストを意識した運営に。
(24年度は130円、25年度は150円を予定)

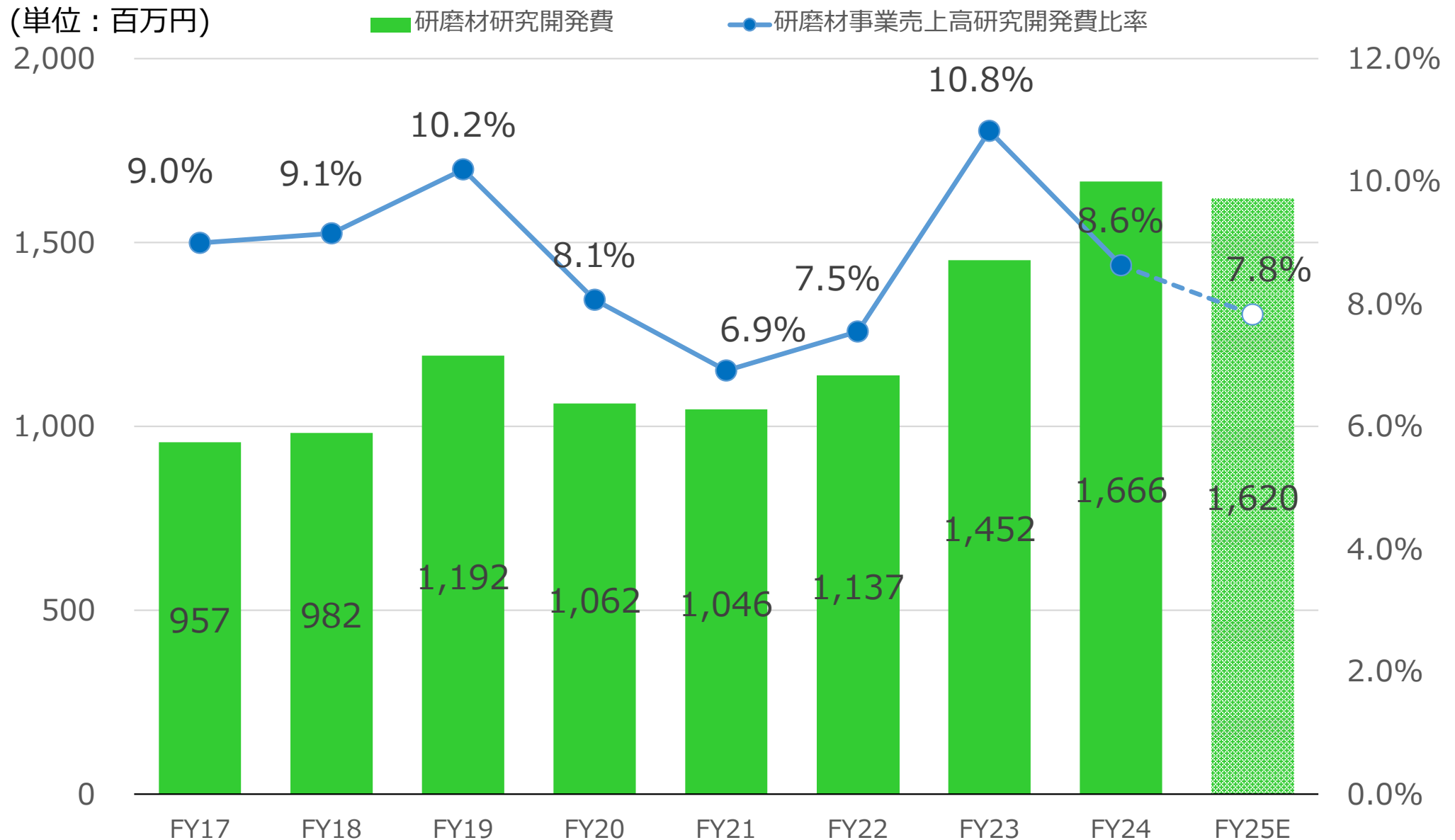
株主還元

(単位：百万円)

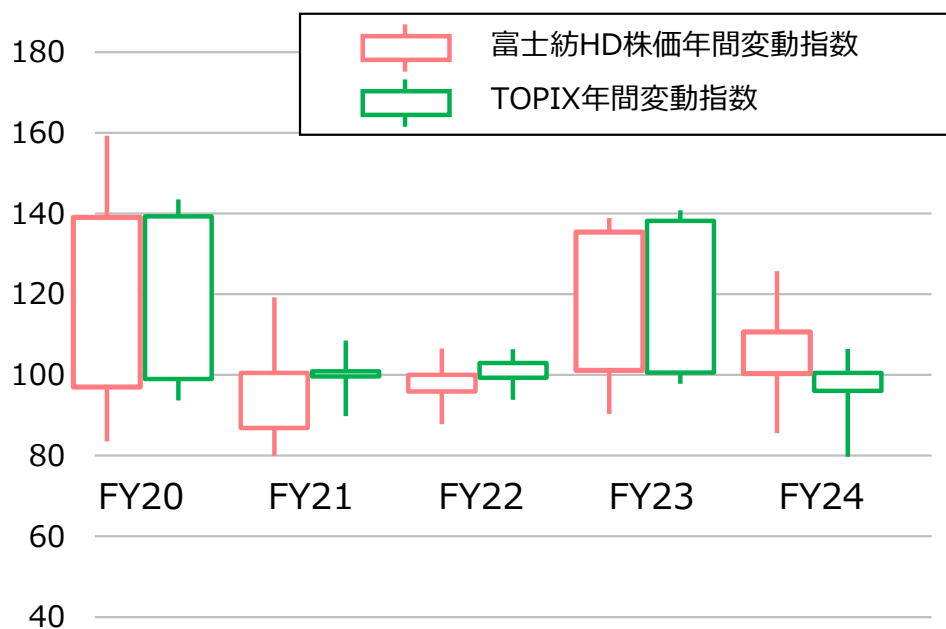
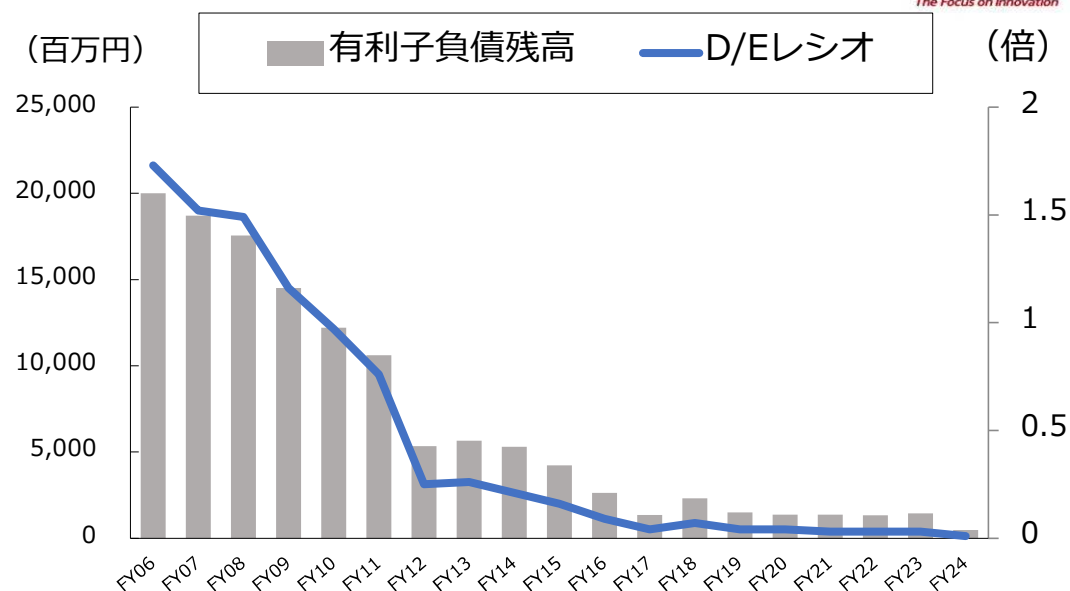
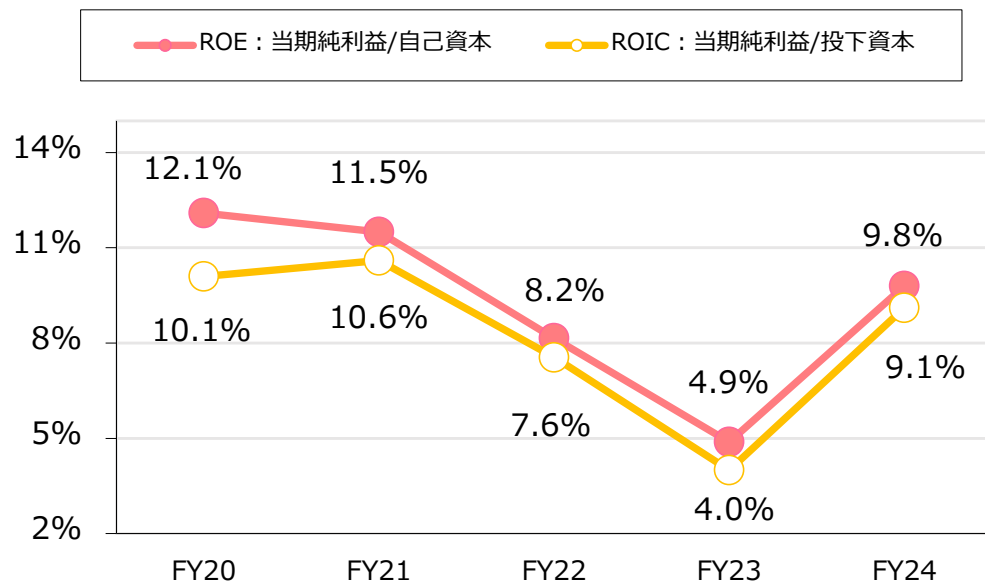


(Appendix)研磨材事業研究開発費・売上高比率

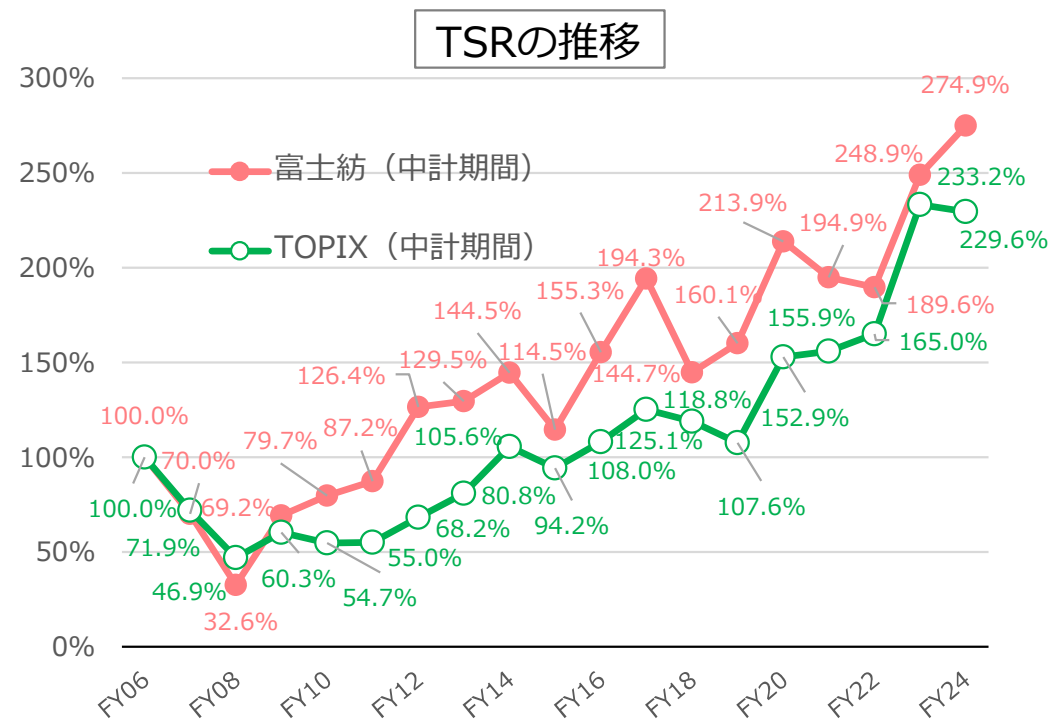
(単位：百万円)



(Appendix)主な経営指標・株価指標

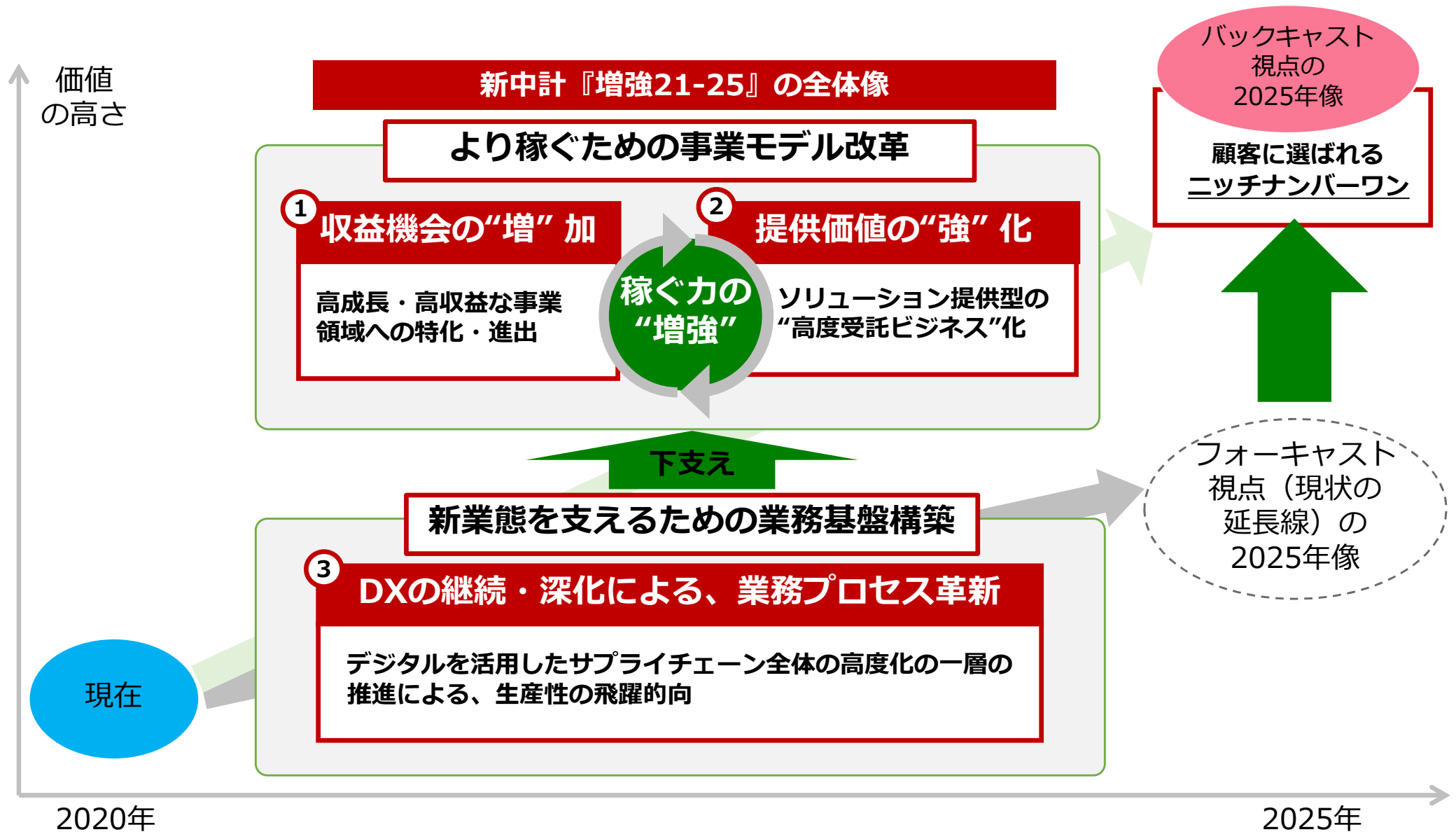


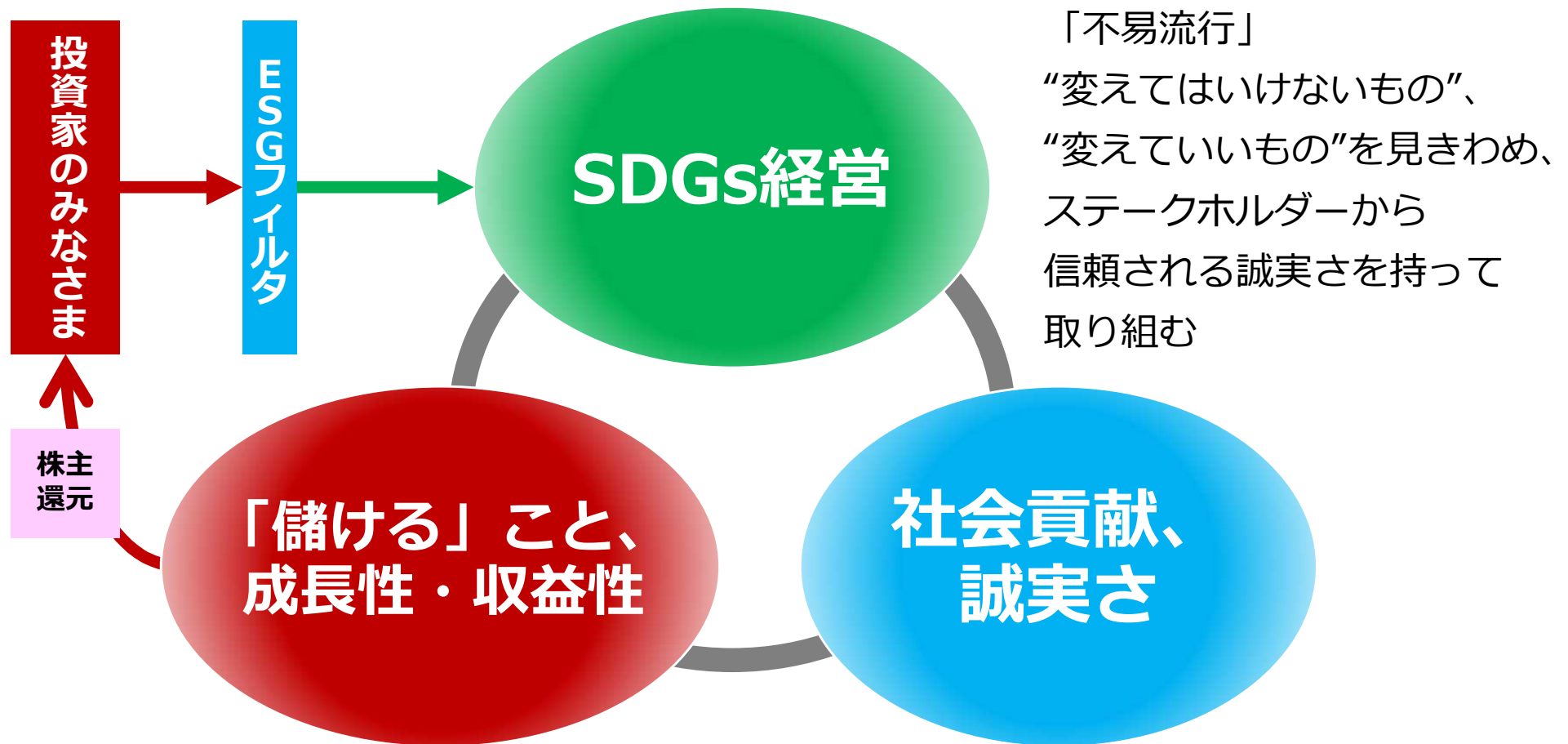
(TOPIX、富士紡HD株価～前年度末価格を100とした場合のローソク足)



「増強21-25」の全体像

“圧倒的なニッチナンバーワン”を目指し、稼ぐ力の“増強”とDXの継続・深化に取り組む

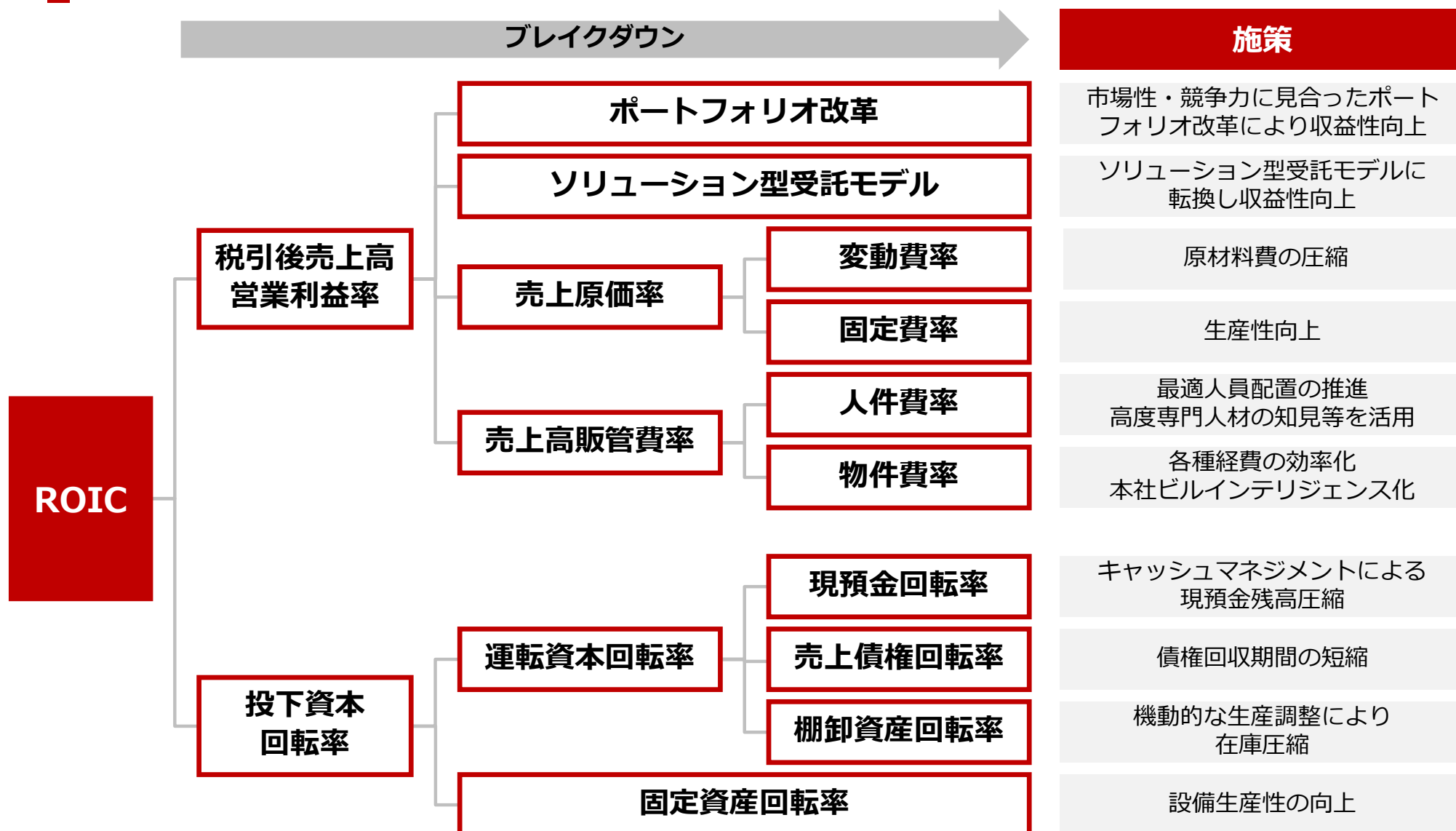




- 事業ポートフォリオマネジメント
- キャッシュフロー重視
- ROIC経営手法
(在庫削減、借入金返済・有利子負債減少)
- 持続的成長のための投資

- ふくのわプロジェクト参画
(衣料品のリサイクル・リユース、パラスポーツ支援)
- 水族館出資を通してイルカとの共存サポート
- 災害時衣料支援、コロナ対策医療機関従事者応援
- CO2削減、産業廃棄物削減

ROICをブレイクダウンし、個々の施策を達成することで全社のROIC向上を図る





- ◆ 本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。
- ◆ 本資料を作成するに当たっては、正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。
- ◆ 本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。